

青森県埋蔵文化財調査報告書 第436集

西張平遺跡Ⅱ

— 夢の森・倉石地区中山間地域総合整備事業に伴う遺跡発掘調査報告 —

(遺物編)

2007年3月

青森県教育委員会

序

青森県埋蔵文化財調査センターでは、夢の森・倉石地区中山間地域総合整備事業に伴い、平成15年度から17年度の3カ年にわたって三戸郡五戸町（旧倉石村）に所在する西張平遺跡の発掘調査を実施しました。

本報告書は、平成17年度に刊行された『西張平遺跡』（遺構編）の続編となります。本編では、検出した竪穴住居跡などから出土した遺物とその出土状況、理化学的分析の結果を掲載し、最後にこれまでの調査成果の総括を行なっています。

発掘調査で出土した約750箱におよぶ遺物の整理作業には大変な労力を費やしました。

しかし、縄文時代前期から中期にかけての復元土器は800個体以上に達し、土偶や石器などの遺物とともに、円筒土器の編年研究などの上でも、貴重な資料となり得るものです。

この成果が今後の青森県の文化財の保護と研究等に広く活用され、地域社会の歴史教育等に利用されることを期待します。



最後に、発掘調査の実施及び報告書の作成にあたり、御指導、御協力をいただきました多くの方々に対して深く感謝の意を表します。

平成19年3月

青森県埋蔵文化財調査センター
所長 白鳥隆昭

例 言

- 1 本報告書は、夢の森・倉石地区中山間地域総合整備事業に伴い、青森県埋蔵文化財調査センターが平成15年度から平成17年度に発掘調査を実施した五戸町（旧倉石村）西張平遺跡の発掘調査報告書である。平成17年度に「遺構編」として青森県埋蔵文化財調査報告書第416集「西張平遺跡」を刊行しているが、本編は出土遺物及び物理化学的分析を扱った「遺物編」である。
- 2 西張平遺跡の所在地は、三戸郡五戸町大字倉石又重字西張平地内、青森県遺跡番号は66002である。
- 3 本報告書は、青森県埋蔵文化財調査センターが編集し、青森県教育委員会が作成した。なお、執筆者名は、依頼原稿が文頭に、その他は必要に応じて文末に記した。
- 4 挿図の縮尺は、各図ごとにスケールを付してある。遺物写真の縮尺は統一していない。
- 5 図中の石器で用いたトーンは、以下のとおりである。

 スリ範囲  タタキ・凹み範囲  研磨範囲

- 6 土層等の色調観察には農林水産省農林水産技術会議事務局監修の『新版 標準土色帖』（小山正忠・竹原秀雄編 2003年版）を使用した。
- 7 出土遺物の鑑定及び同定、分析については、次のとおり依頼した。（順不同・敬称略）

石質の鑑定	青森県立八戸中央高等学校 教諭 佐々木辰雄
＊	青森県立郷土館 学芸主査 島口 天
放射性炭素年代測定	（株）地球科学研究所・（株）加速器分析研究所
火山灰の分析	弘前大学理学部地球環境学科 教授 柴 正敏
人骨の鑑定	国際医療福祉大学リハビリテーション学部 助教授 奈良 貴史
- 8 遺物の写真撮影は、シルバーフォト（青森市）とスタジオエイト（青森市）に委託した。
- 9 遺物の実測図は、縄文土器の一部を（株）シン技術コンサル（盛岡市）と（株）トラスト技研（札幌市）に、剥片石器と半円状扁平打製石器の一部を文化財調査事業組合（盛岡市）と（株）トラスト技研（札幌市）に実測委託した。
- 10 本報告書に掲載した地形図は、国土地理院発行の2.5万分の1の地形図（十和田・田子・八戸・三戸）を複写して使用した。
- 11 引用・参考文献については巻末に収めた。文中に引用した文献名については著者名と西暦年で示した。
- 12 発掘調査及び報告書作成における出土遺物・実測図・写真等は、現在青森県埋蔵文化財調査センターで保管している。
- 13 発掘調査及び本報告書作成にあたり、次の機関並びに諸氏から御教示、御指導を受けた。
（アイウエオ順、敬称略）
五戸町（旧倉石村）教育委員会、青森県立郷土館、（財）岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター、北上市立埋蔵文化財センター
石沢 聡、稲野 裕介、泉 沢良、一町田 工、井上 雅孝、小野 貴之、小保内 一典、小笠原 諭、葛西 勲、木村 高、佐藤 智雄、佐野 忠史、城田 安幸、高橋 潤、田中 寿明、土岐 耕司、長尾 正義、成田 和世、福田 友之、古屋敷 則雄、星 雅之、村本 恵一郎、柳沢 一範

目 次

序

例言

目次

第1章 調査と整理の概要

第2章 遺構内の出土遺物

第1節 竪穴住居跡の出土遺物	4
第2節 土坑の出土遺物	122
第3節 その他の遺構の出土遺物	152
第4節 捨て場区域の出土遺物	158
第5節 盛り土区域の出土遺物	193

第3章 遺構外の出土遺物

第1節 土器	203
第2節 石器	217
第3節 土製品	222
第4節 石製品	227

第4章 理化学的分析

第1節 放射性炭素年代測定結果	237
第2節 西張平遺跡出土人骨	245
第3節 西張平遺跡出土の火山灰について	249

第5章 まとめ

第1節 遺跡周辺の地形	252
第2節 遺構の配置	253
第3節 竪穴住居跡	254
第4節 縄文時代の土坑墓	257
第5節 出土遺物	258

正誤表 第416集『西張平遺跡』（遺構編)	261
遺物観察表	262
写真図版（遺物）	296
報告書抄録	339

第1章 調査と整理の概要

1 調査の概要

青森県五戸町(旧倉石村)館町に所在する西張平遺跡の発掘調査は、平成15年から17年の3カ年にわたって行なわれた。

平成15年度は、今後の発掘調査を効率的に進めるため調査対象区域における堆積層の厚さ及び遺構・遺物の広がりなどの確認作業を主体とし、9月から10月までの2ヶ月間行なわれた。グリッド設定は行わず、周辺の農作業に影響しない部分について、適時トレンチを設定し調査を行なった。

その結果、調査区の南西部から中央部にかけては、部分的に長芋などの耕作により攪乱は受けているものの、遺構・遺物ともかなりの密度で残存していることが確認できた。しかし、北東部のトレンチではほとんど遺構遺物が確認されないうえ、次年度の調査範囲は農道を中心とした南西部から中央部分となった。

平成16年度は、4月下旬から平成15年度の調査結果を基礎資料として発掘調査を実施した。基本的に農道を封鎖(通行禁止)しての調査は不可能なため、付近の畑地等を一時的に借地し、仮設道路を設けた。調査の工程上、調査区を東西に分割して進めることとし、まず、排土場所の関係から北東部分を優先して調査を開始した。グリッドの設定は業者委託し、ベンチマークも調査区内に数カ所設置した。

調査は、ある程度は予想していたものの遺物包含層が広がる農道の下部から多量の遺物が出土し、北東側は本来あるべき中振浮土層が確認できないほど遺構の重複がみられ、現状のままでは調査期間内の終了が難しいことから、県農林水産部農村整備課、県教育庁文化財保護課、県埋蔵文化財調査センターの三者で、今後の調査について現地協議を行い、当初終了予定の8月31日を10月29日まで延長して発掘調査をする事となった。しかし、遺構数と出土遺物数はさらに増え続け、期間内に終了できる範囲は最大で北東部分に限られ、調査上分割した北西部分の発掘調査は無理な状況となった。そのため、再度農林水産部農村整備課、五戸町農林課、文化財保護課、埋蔵文化財調査センターの関係者により、調査の進捗状況と今後の予定について協議した結果、次年度も調査することで合意した。

10月上旬から相次いで遺構から人骨が出土し、分析等の対応に追われたが、どうにか、北東部分の調査を終了し、調査区の埋め戻しを行った。

平成17年度は、調査開始前に、県農林水産部担当者と現地協議後、現場周辺で借用する土地の賃貸借契約を締結するとともに、昨年度に未調査である南西側部分を農道に沿って鉄板敷設して仮設道路を設置し、農道部分の掘り下げを重機を用いて行った。調査期間は4月下旬からお盆前のため、期間内に終了できるように計画し、一部盛り土部分から遺物が多量に出土するが、昨年度の経験を生かして取り上げ、崩落防止のため鋼矢板を打設するなどして調査を進めた結果、予定期日である8月12日までに、ほぼ調査を終了する事ができた。その後、調査区内の埋め戻しを行い県農林水産部農村整備課に引き渡し、調査区域内の発掘調査をすべて終了した。

2 遺物の取り上げ方法

遺構内出土の遺物は、層位ごとに取り上げる事を基本としたが、プランや重複が確認できないままに取り上げられた遺物も存在し、旧遺構名のままの遺物がある。竪穴住居跡の床面及び土坑底面の出土の遺物は番号を付して位置と高さを記録して取り上げている。

遺構外出土の遺物（捨て場区域と盛り土区域を含む）は、基本層序に準じて取り上げているが、一部攪乱を受けている部分に関しては耕作土である第1層としている。また、遺物包含層では、多量の土器を取り上げる際、写真実測を委託して図化し、土器のまとまりごとに番号を付して取り上げた。（平成15年度）

発掘調査を効率的に進めるため調査対象区域の堆積層の厚さ及び遺構・遺物の広がりなどの確認作業を主体としたため、グリッド設定は行わず、周辺の農作業に影響しない部分について、適時トレンチを設定し、遺物はトレンチごとに取り上げている。ただし、遺構と思われる落ち込みからの出土遺物は、できるだけ取り上げずに残した。出土した遺物は、段ボール箱で土器が60箱、石器が7箱である。

（平成16年度）

基準杭を基点としたグリッド法を用い4m四方のグリッドを設定した。グリッドは東西方向にアルファベット、南北方向に数字を付し、その呼称は南西隅の杭番号を使用している。遺物は遺構ごと、あるいはグリッドごとに取り上げ、復元可能な土器や定型の石器及び土製品・石製品は位置と標高を記録して取り上げている。出土した遺物は、段ボール箱で土器が440箱、石器が62箱である。

（平成17年度）

昨年度と同様に基準杭を基点とした4m四方のグリッドを設定した。遺物の取り上げ方法は前年に従った。出土した遺物は、段ボール箱で土器が115箱、石器が46箱である。



捨て場区域の調査状況（平成16年度）

3 整理の方法

(平成15年度)

発掘調査終了後、埋文センターにて出土した約70箱の土器と石器を水洗いし、乾燥後、注記作業を行い、仮置き場にて一時保管した。

(平成16年度)

発掘調査では、捨て場区域(遺物包含層)から多量の遺物が出土したため、復元が可能な土器を中心に段ボール箱でおよそ100箱を単位として埋文センターに、4回(6月・7月・8月・9月)搬出した。遺物は、その都度、水洗いと注記作業を行い、復元個体の接合に努めた。発掘調査が終了後、残りの土器も水洗いし、昨年度一時保管した土器を含めて接合作業を行った。その結果、復元個体が500個体を超えるため、担当者間で検討した結果、土器の実測委託をすることとし、包含層(捨て場)及び遺構内出土土器を中心に復元実測が可能な個体の接合を主とした。石器も水洗いし、注記作業(剥片を除く)終了後、使用痕の有無により選別した。

また、調査が次年度に及ぶことが確定した時点で、報告書を2カ年に分けて刊行し、平成18年3月に平成17年度の調査した遺構も含めた「遺構編」、平成19年3月に「遺物編」とすることになったため、遺物の選別等は遺構内優先とした。平成16年12月に200点の土器を業者に実測委託した。

(平成17年度)

昨年度に引き続き捨て場及び遺構内出土土器の接合作業を実施した。発掘調査では、盛り土部分からも捨て場ほどではないが多くの遺物が出土したため、6月に124箱、8月に37箱を埋文センターに搬出し、水洗いと注記作業後、復元個体の接合作業に努めた。その結果、平成17年8月に120点、12月に100点、1月に30点の復元土器を実測委託した。あわせて石器実測の委託を平成17年9月に210点、12月に181点、1月62点の合計453点を実施した。また、遺構内出土の遺物を選別し、実測、拓本、写真撮影等の作業を行った。平成18年3月末に青森県埋蔵文化財調査報告書第416集『西張平遺跡』(遺構編)が刊行された。

(平成18年度)

刊行された報告書「遺構編」の遺物を所定の位置に収納し、前年度に遺構内を優先していたため後回しとなっていた遺構外出土遺物の選別をした。整理作業において何度か遺構内との接合を試みたが、遺物量が多すぎることと十分なスペースの確保ができず、十分なものであるとは言えない。しかし、その後も順調に復元土器は増え、平成18年8月に80点を土器の実測委託し、あわせて平成18年7月に192点を石器の実測委託を行った。また、平成18年12月には、実測の効率化を図る目的で、遺物写真撮影を行い、本報告書に掲載する遺構内の遺物の実測を優先した。その後、遺構内実測土器のトレースと並行して、選別した遺構外の拓本、実測、トレース、写真撮影などの作業を行なった。

(中嶋 友文)

第2章 遺構内の出土遺物

調査で出土した遺物は、ほとんどが縄文時代前期から中期にかけての土器、石器、土製品、石製品などである。その出土量は、段ボール箱で約750箱、重量は約6,700kgにも及ぶ。

各遺構の詳細については、第416集『西張平遺跡』（遺構編）に記載してあるため、本章では、遺構内における遺物出土状況と出土遺物のみを掲載している。ただし、出土したすべての遺物を掲載している訳ではなく、一部割愛した遺物も存在する。また、前集で掲載している遺物については再掲していない。なお、竪穴住居跡と土坑の観察表は各節末に付けてある。

第1節 竪穴住居跡の出土遺物

調査で検出した竪穴住居跡は39軒で、それぞれから多少なりとも土器や石器などの遺物が出土している。その総重量はおよそ2,000kgで、全体の出土量の30%を占める。

また、竪穴住居跡から出土した土器の総重量は1,400kgで、中でも出土量の多い竪穴住居跡は、第11号竪穴住居跡が340kg、第13号竪穴住居跡が112kg、第16号竪穴住居跡が103kg、第24号竪穴住居跡が187kg、第26号竪穴住居跡が145kg出土している。一見して竪穴住居跡からの出土土器が多くみられがちであるが、実際は竪穴住居跡の床面から出土する遺物が多いとはいえ、出土遺物の多くは、その出土状況から廃絶された竪穴住居跡の埋没過程において、埋まりきらない窪地に廃棄されたことが窺える。また、覆土中から大量の土器が出土する竪穴住居跡と出土しないのがみられ、それらを含めて検討することによって、住居跡の廃絶時期、捨て場区域や盛り土区域の構築時期などについて更に詳しく捉えることができると考えられる。



第26号竪穴住居跡遺物出土状況

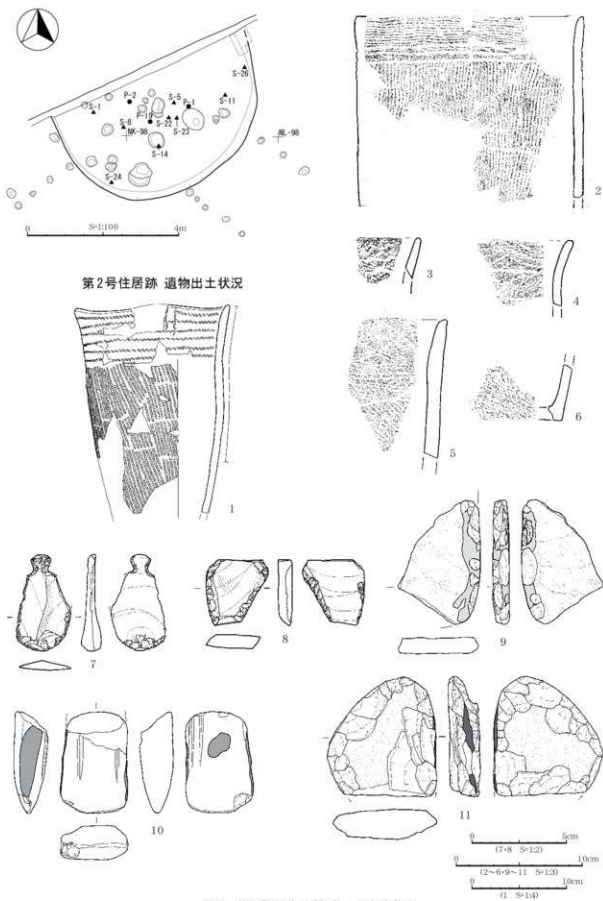


图1 第2号竖穴住居跡 出土遺物1

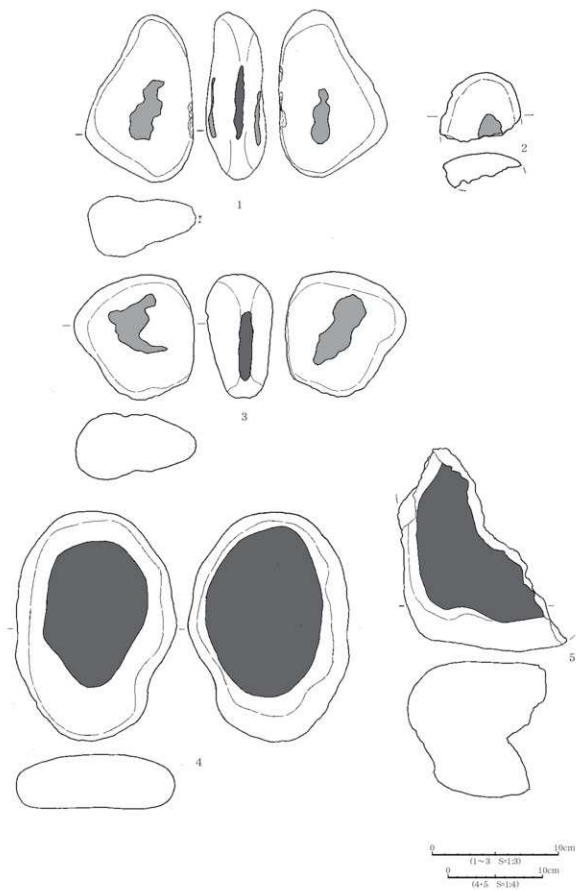
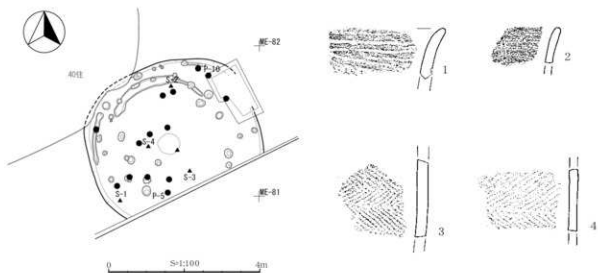


図2 第2号竪穴住居跡 出土遺物2



3号住居跡 遺物出土状況

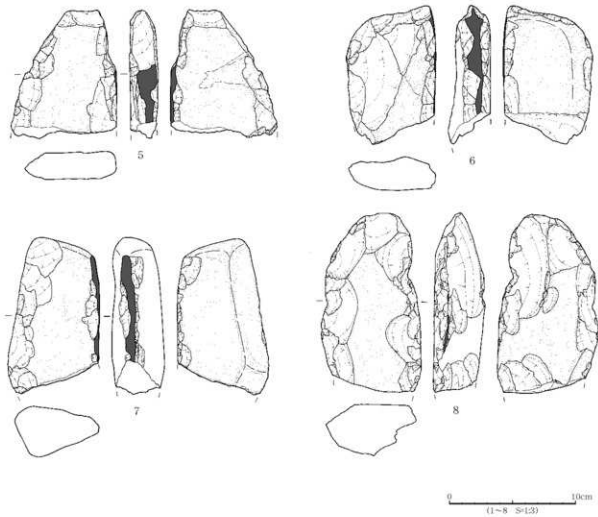
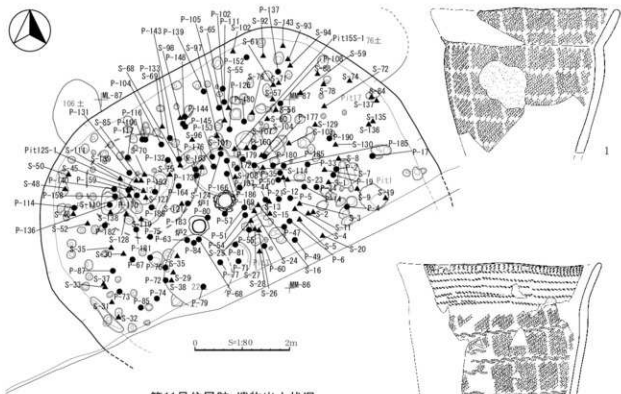


图3 第3号竖穴住居跡 出土遺物

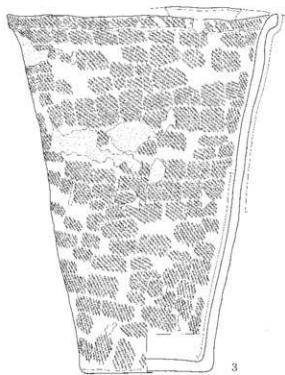


第4号住居跡 遺物出土状況

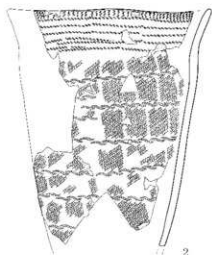
図4 第4号竪穴住居跡 出土遺物



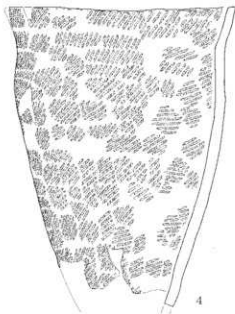
第11号住居跡 遺物出土状況



3



2



4

0 10cm
(1~4 S:1:3)

图5 第11号竪穴住居跡 出土遺物1

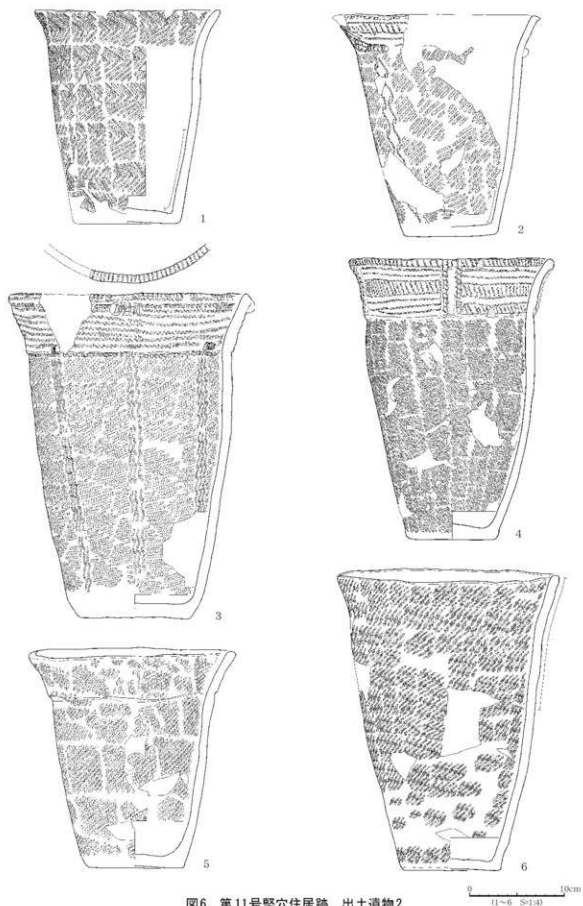


図6 第11号竪穴住居跡 出土遺物2

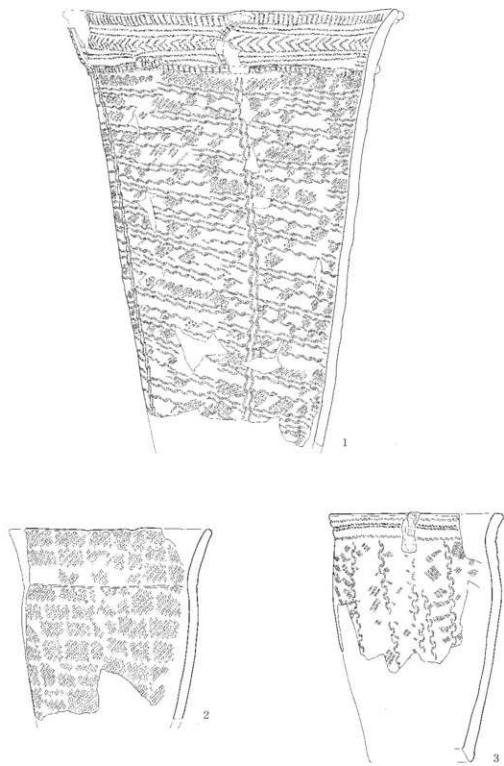


图7 第11号竖穴住居跡 出土遺物3

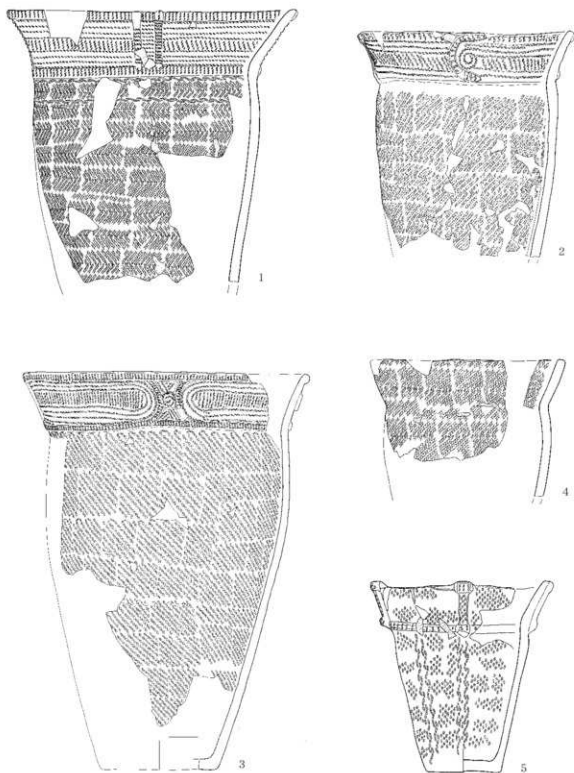


図8 第11号竪穴住居跡 出土遺物4

0 10cm
(1~3 3/14)



图9 第11号竖穴住居跡 出土遺物5



図10 第11号竪穴住居跡 出土遺物6

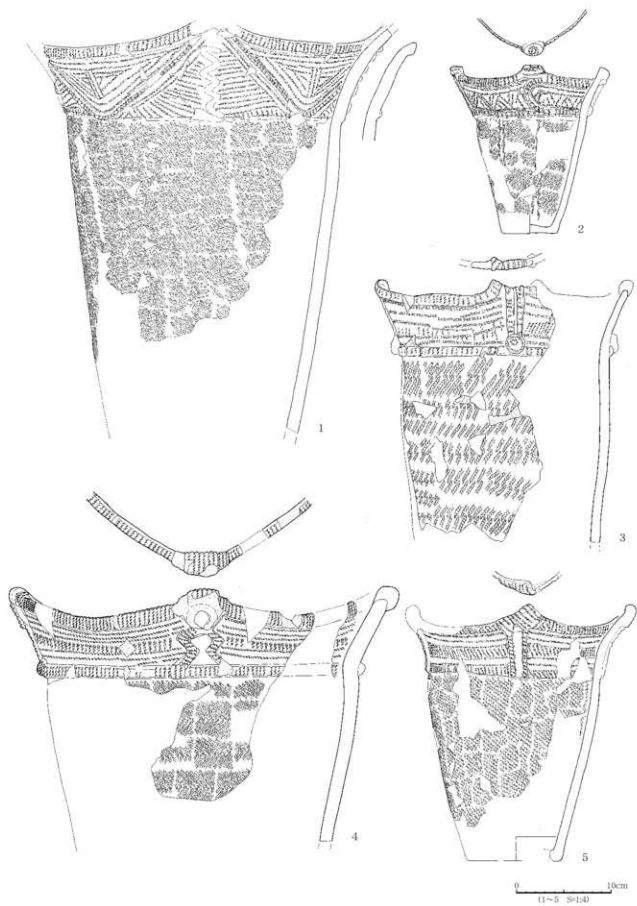


图11 第11号竖穴住居跡 出土遺物7



图12 第11号竖穴住居跡 出土遺物8

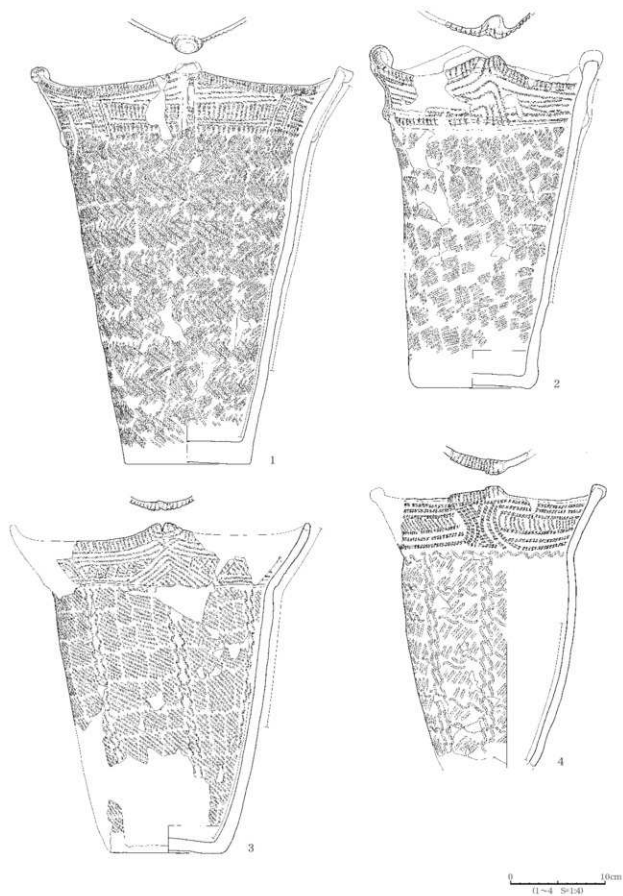


图13 第11号竖穴住居跡 出土遺物9

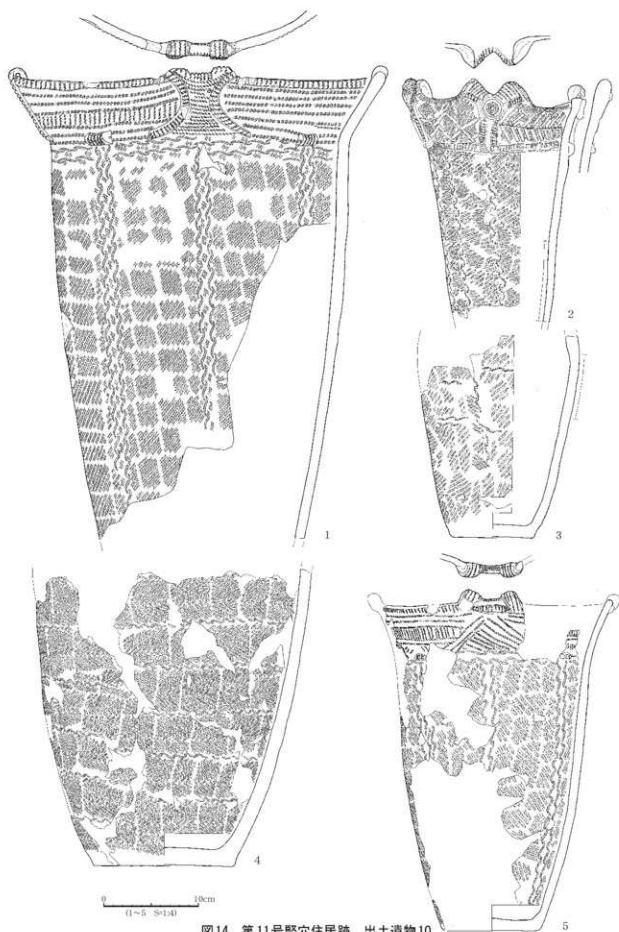


图14 第11号竖穴住居跡 出土遺物10



图15 第11号竖穴住居跡 出土遺物11

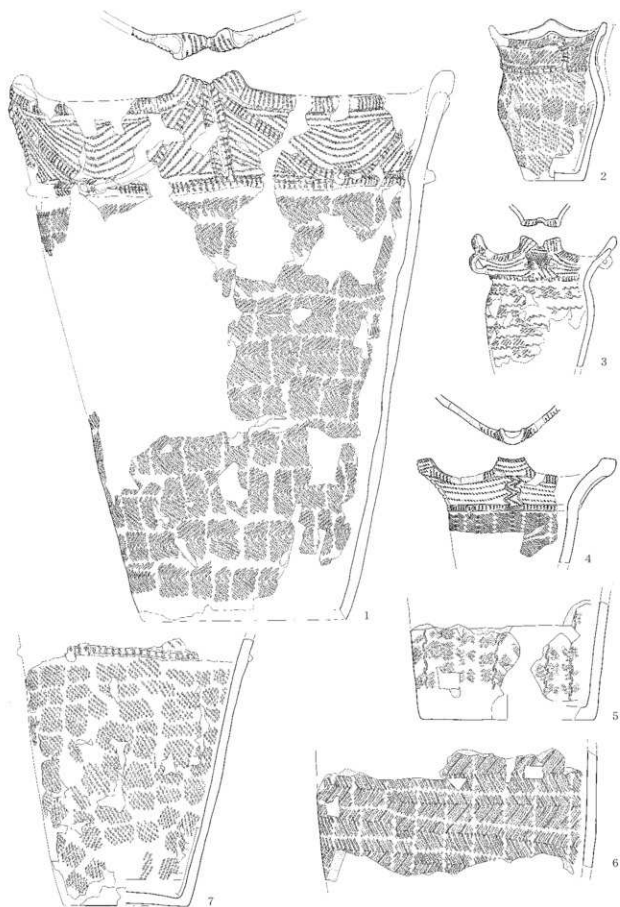


図16 第11号竪穴住居跡 出土遺物12

0 10cm
1/7 S:1/4

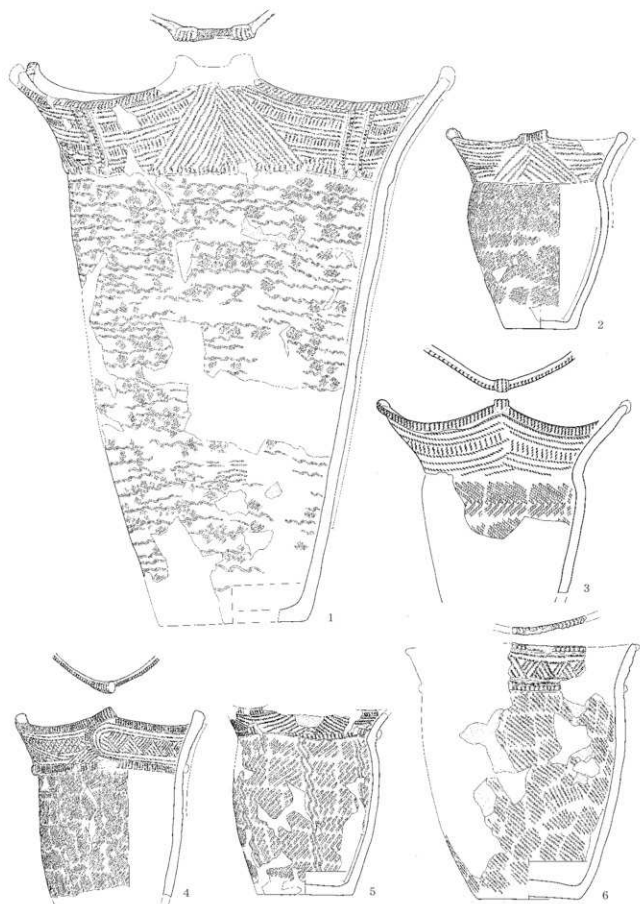


图17 第11号竖穴住居跡 出土遺物13

0 10cm
(1~6 S=1/4)

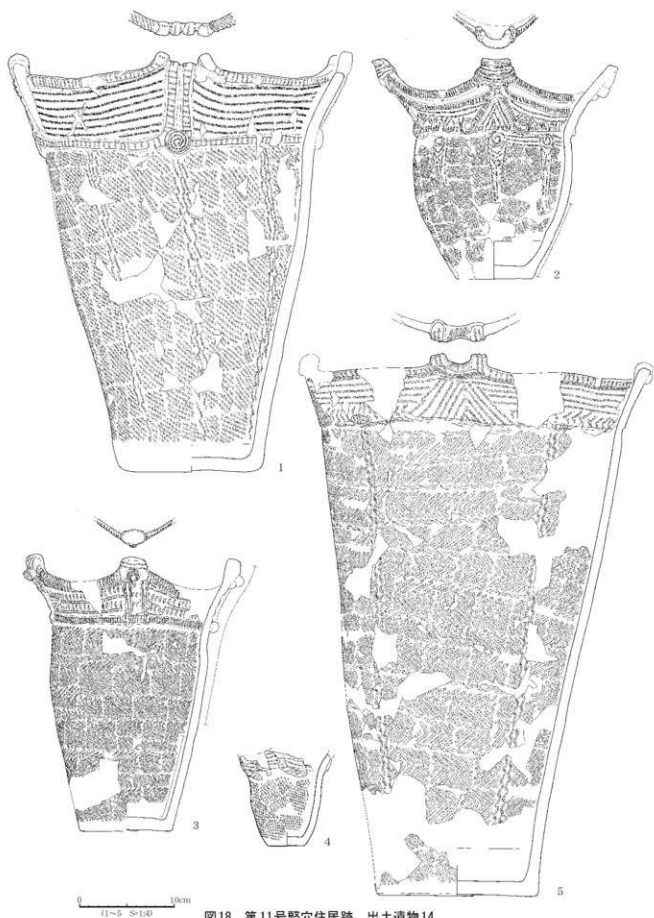


図18 第11号竪穴住居跡 出土遺物14

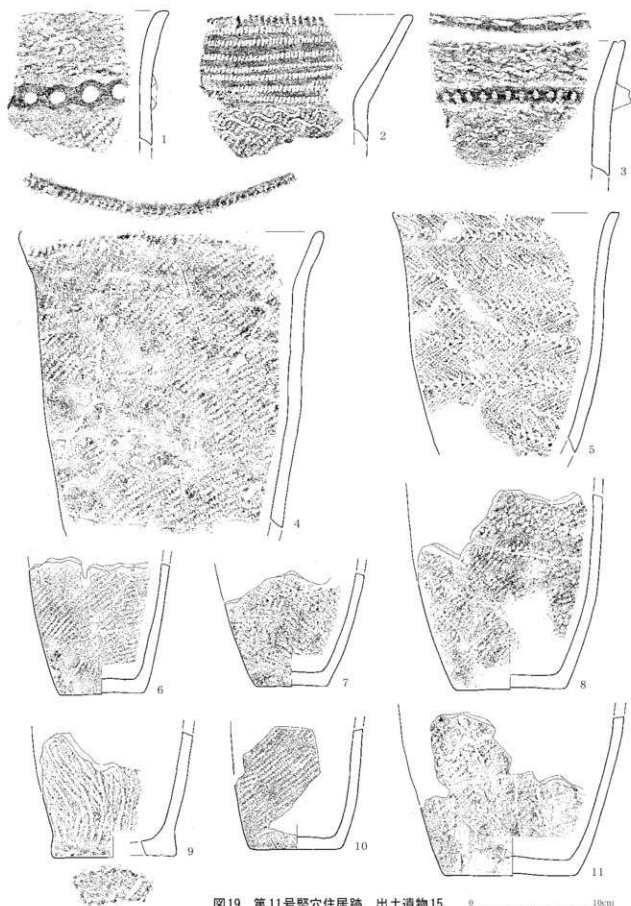


图19 第11号竖穴住居跡 出土遺物15

0 10cm
(1~11 0~1.30)

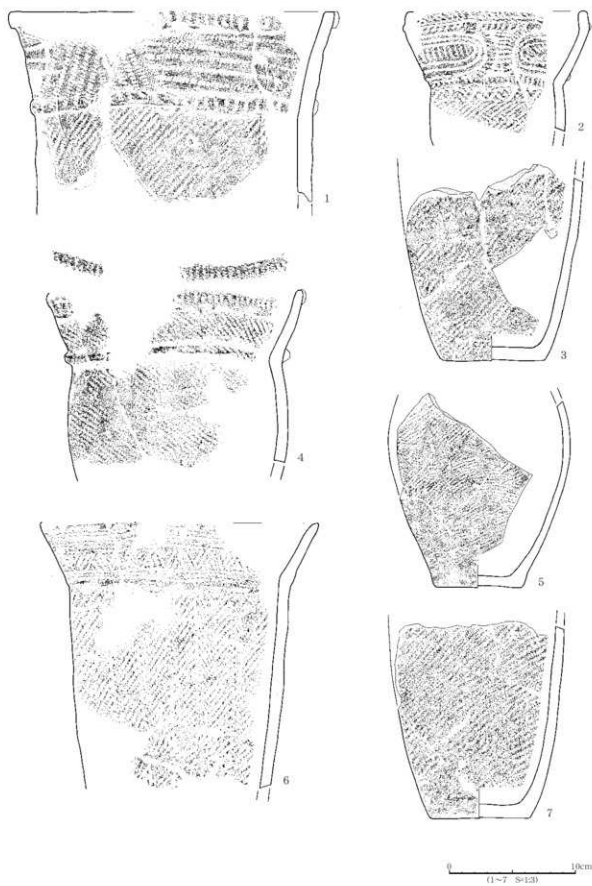


图20 第11号竪穴住居跡 出土遺物16

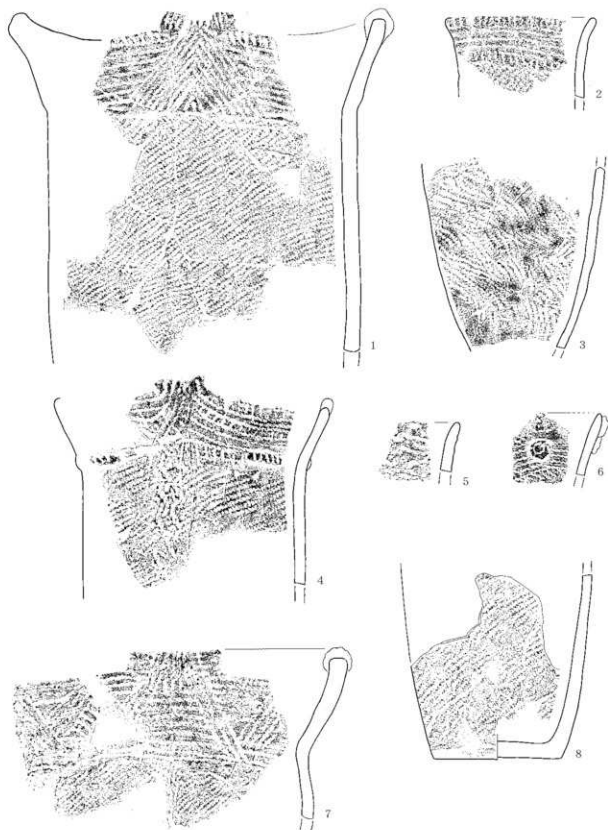


图21 第11号竖穴住居跡 出土遺物17

0 10cm
(1~8 1:1.5)

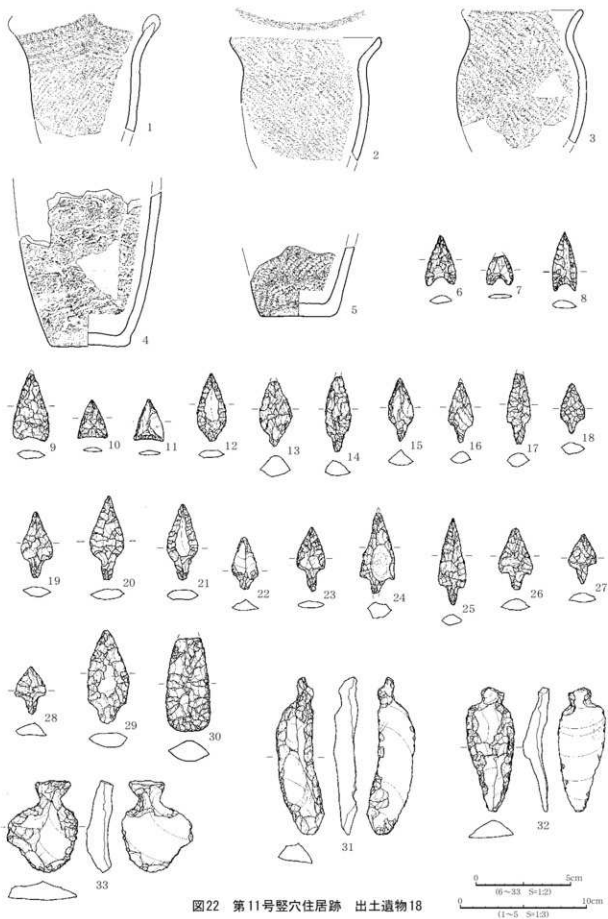


図22 第11号竪穴住居跡 出土遺物18

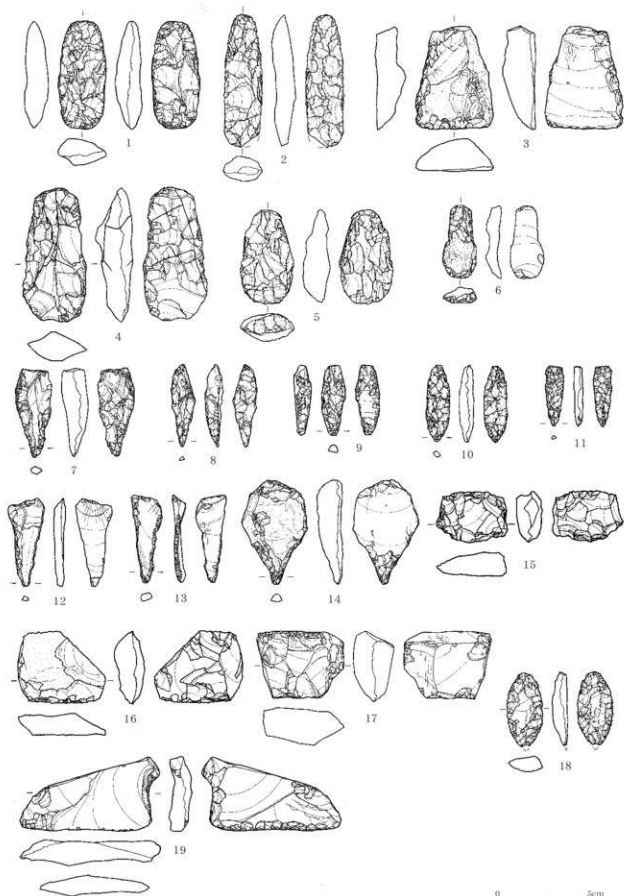


图23 第11号竖穴住居跡 出土遺物19

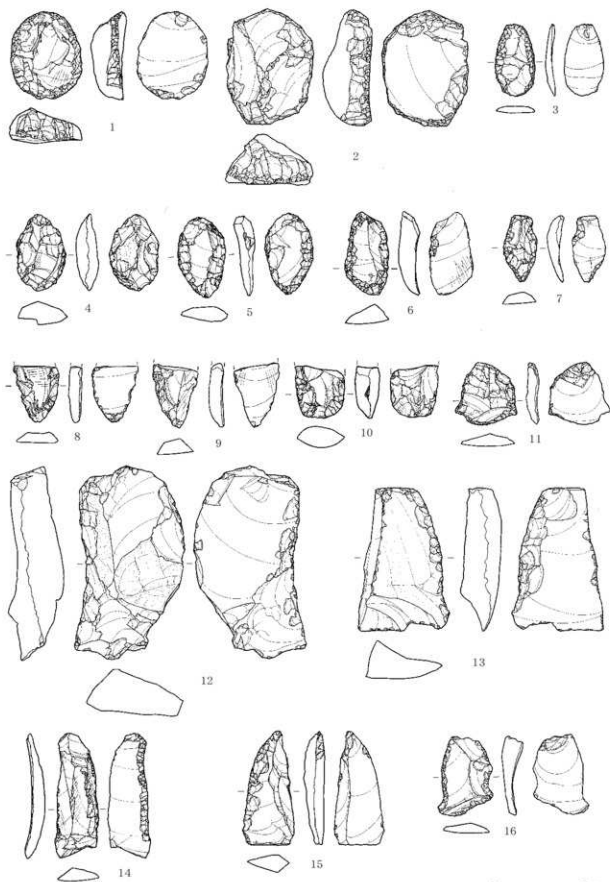


図24 第11号竪穴住居跡 出土遺物20

0 5cm
(1~16 S=1:2)

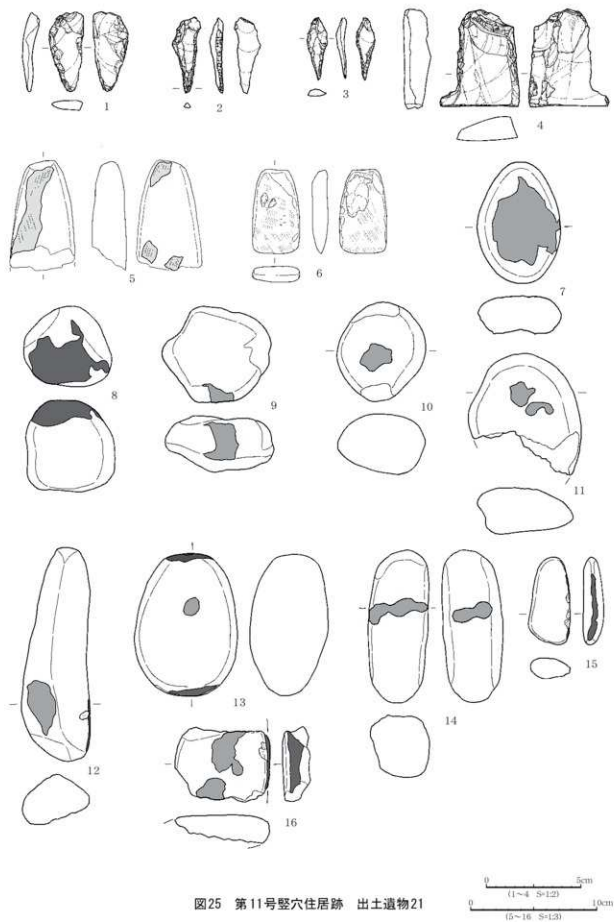


图25 第11号壁穴住居跡 出土遺物21

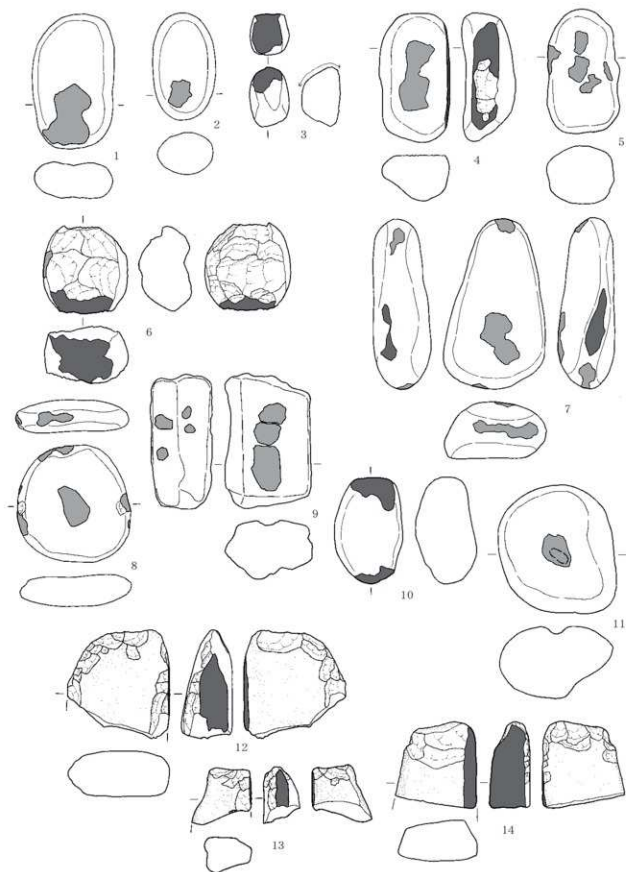


図26 第11号竪穴住居跡 出土遺物22

0 10cm
(1~14 3/13)

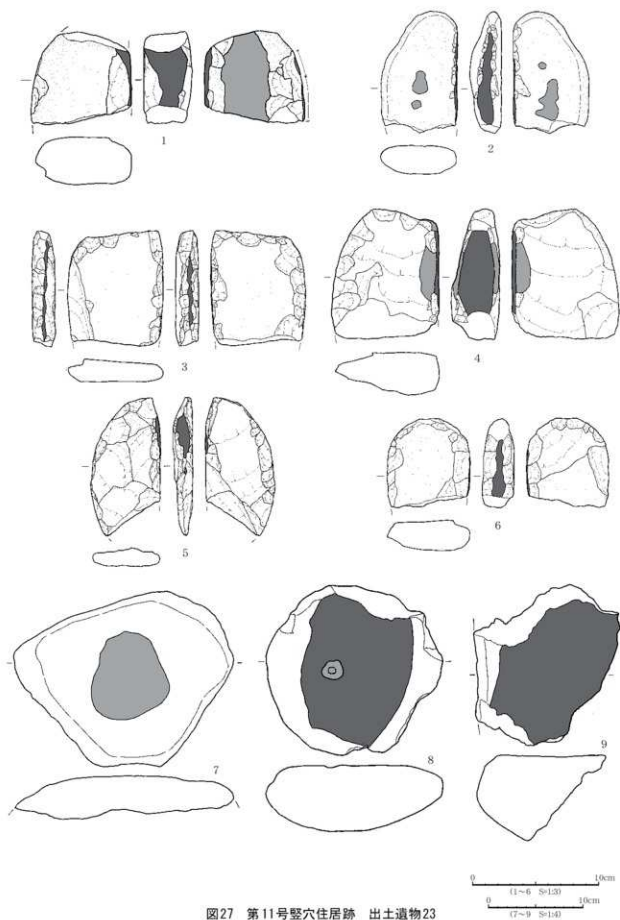


图27 第11号竖穴住居跡 出土遺物23

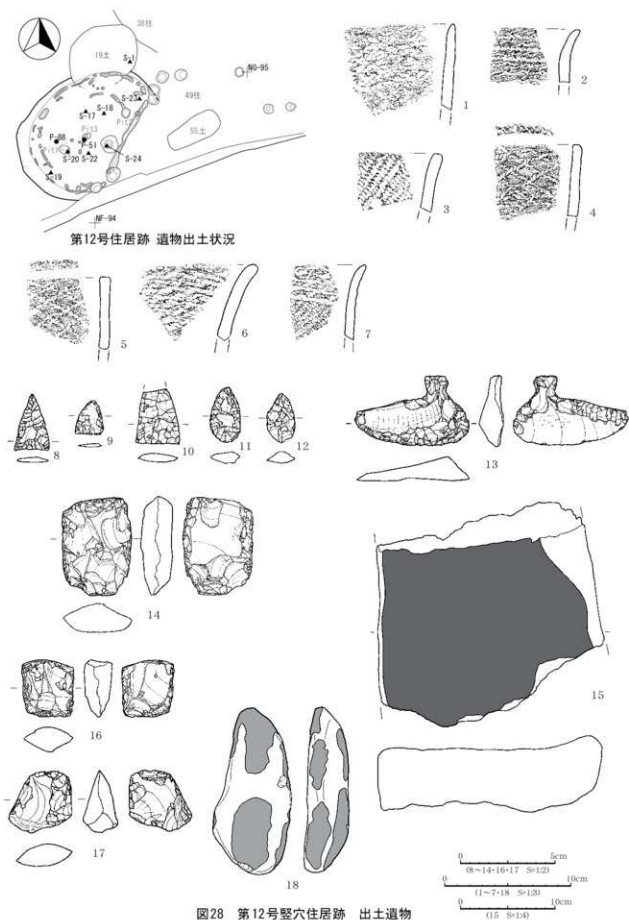
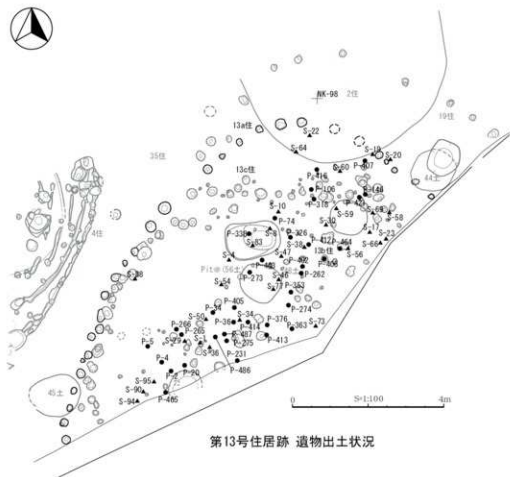


図28 第12号竪穴住居跡 出土遺物



第13号住居跡 遺物出土状況

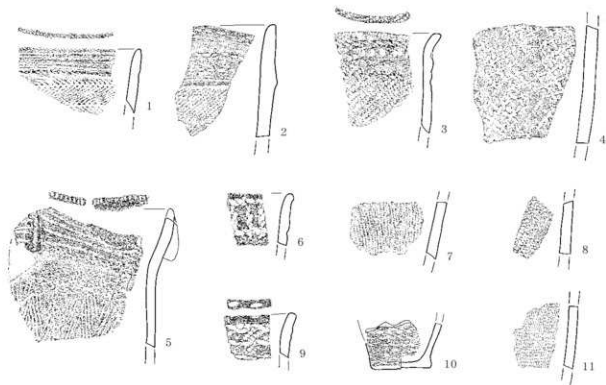


図29 第13号竪穴住居跡 出土遺物1

0 10cm
(1~11) S:1:20



図30 第13号竪穴住居跡 出土遺物2

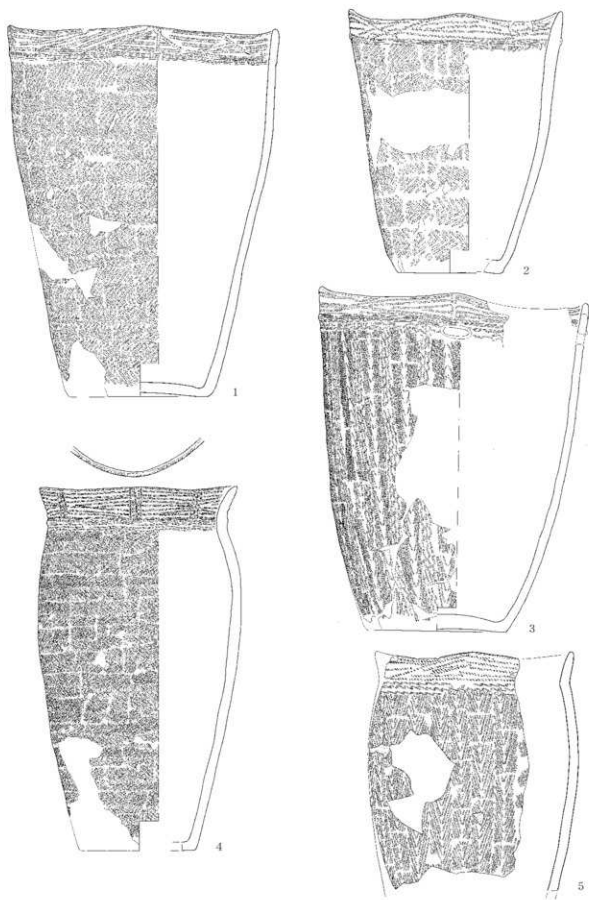


图31 第13号竖穴住居跡 出土遺物3

0 10cm
(1~5 S=1:4)

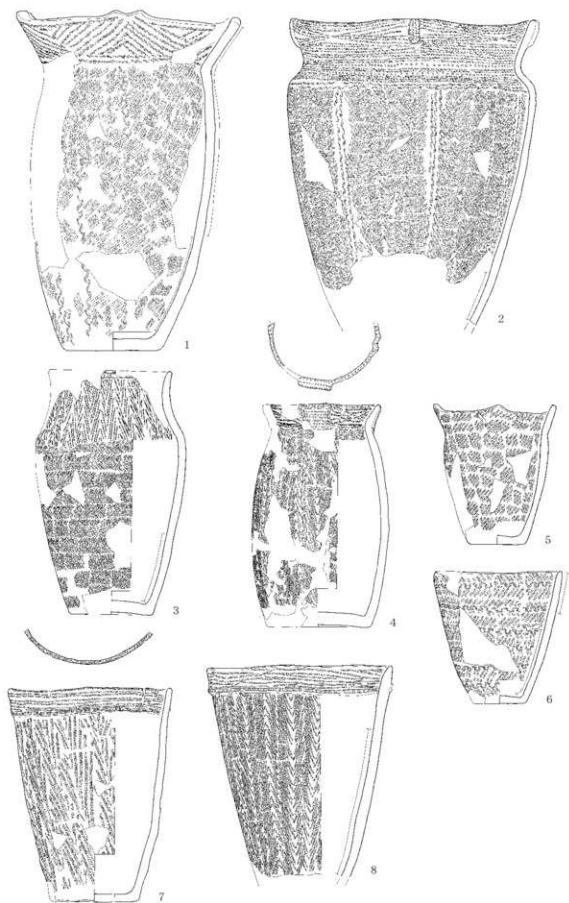


図32 第13号竪穴住居跡 出土遺物4

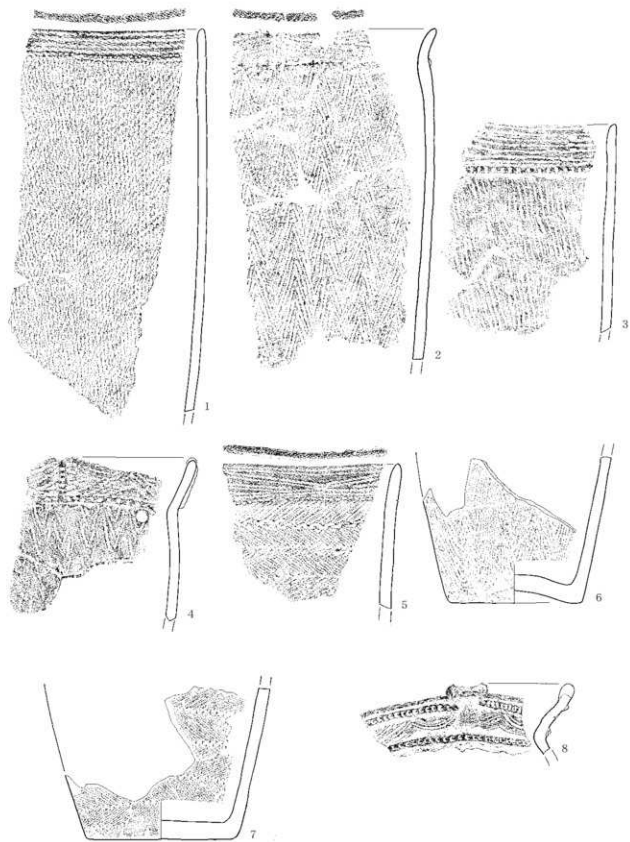


图33 第13号竖穴住居跡 出土遺物5



図34 第13号竪穴住居跡 出土遺物6

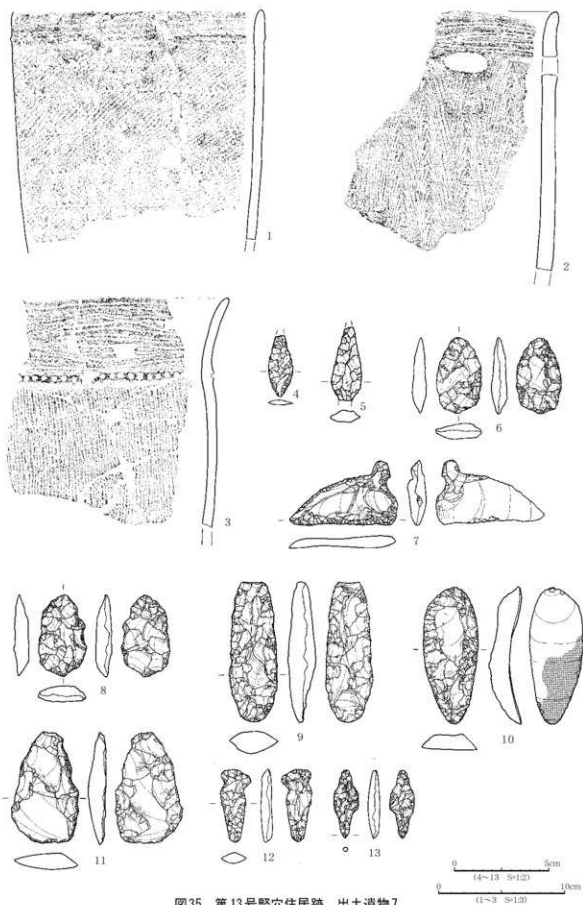


图35 第13号竖穴住居跡 出土遺物7

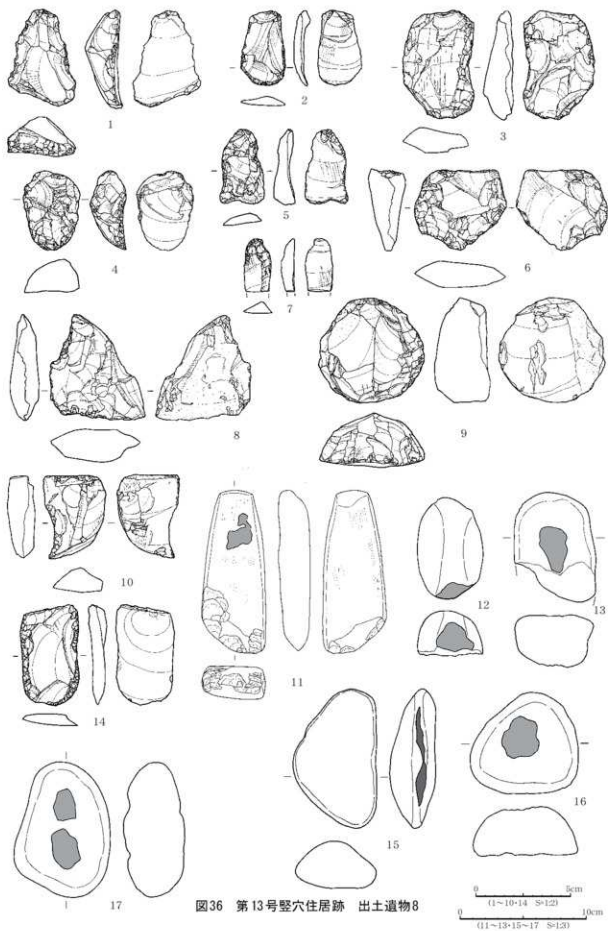
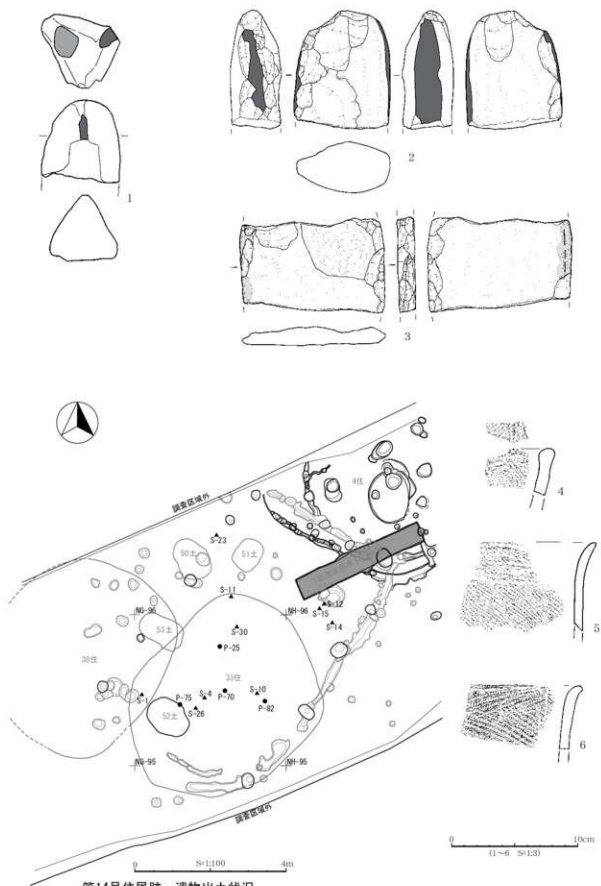


図36 第13号竪穴住居跡 出土遺物8



图37 第13号竖穴住居跡 出土遺物9



第14号住居跡 遺物出土状況

図38 第13号・第14号竪穴住居跡 出土遺物

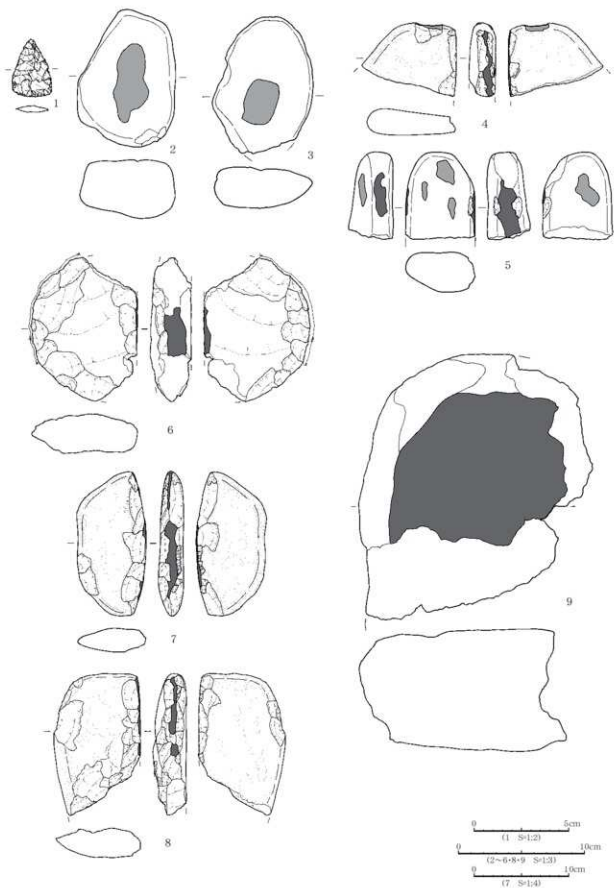
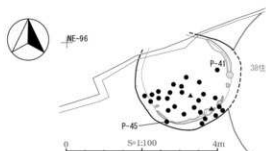
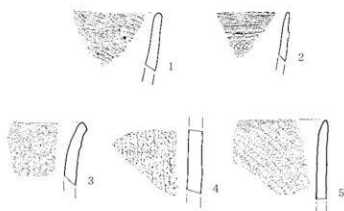


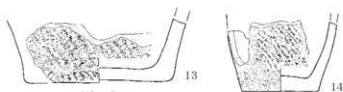
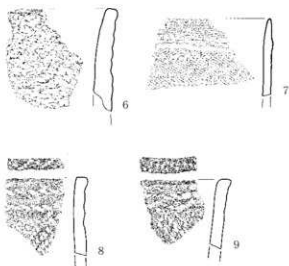
图39 第14号竖穴住居跡 出土遺物2



第15号住居跡 遺物出土状況



第16号住居跡 遺物出土状況



0 10cm
(1~14 S:1:20)

图40 第15号・第16号竖穴住居跡 出土遺物1

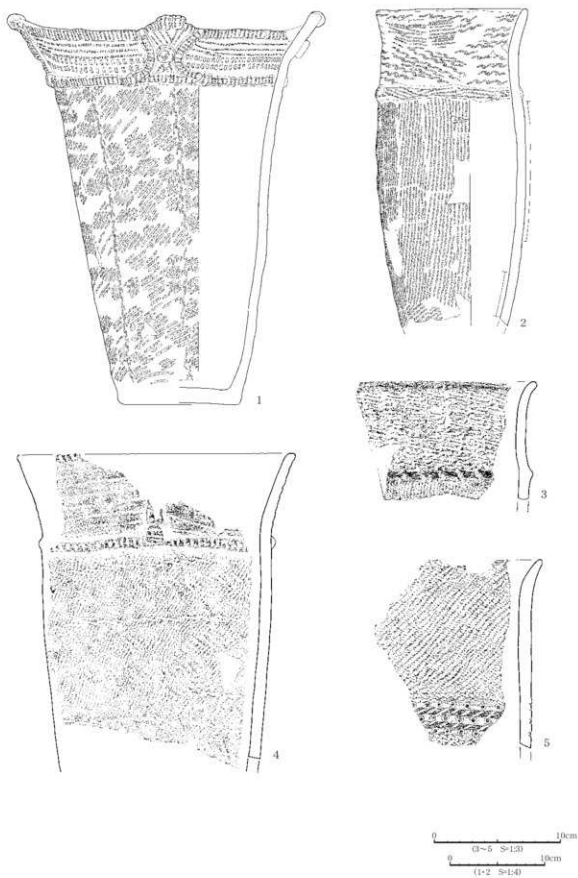


图41 第16号竖穴住居跡 出土遺物2

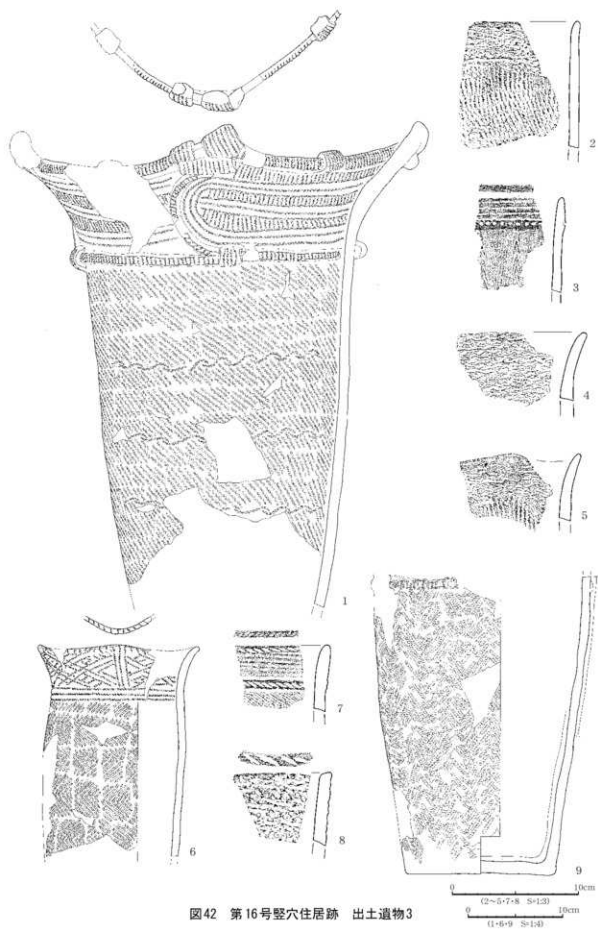


図42 第16号竪穴住居跡 出土遺物3



图43 第16号竖穴住居跡 出土遺物4

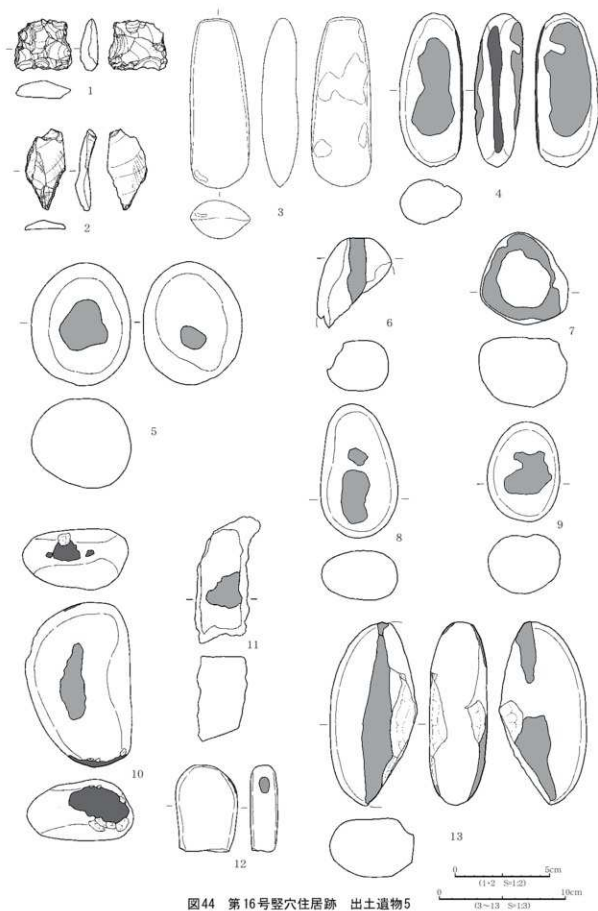


図44 第16号竪穴住居跡 出土遺物5

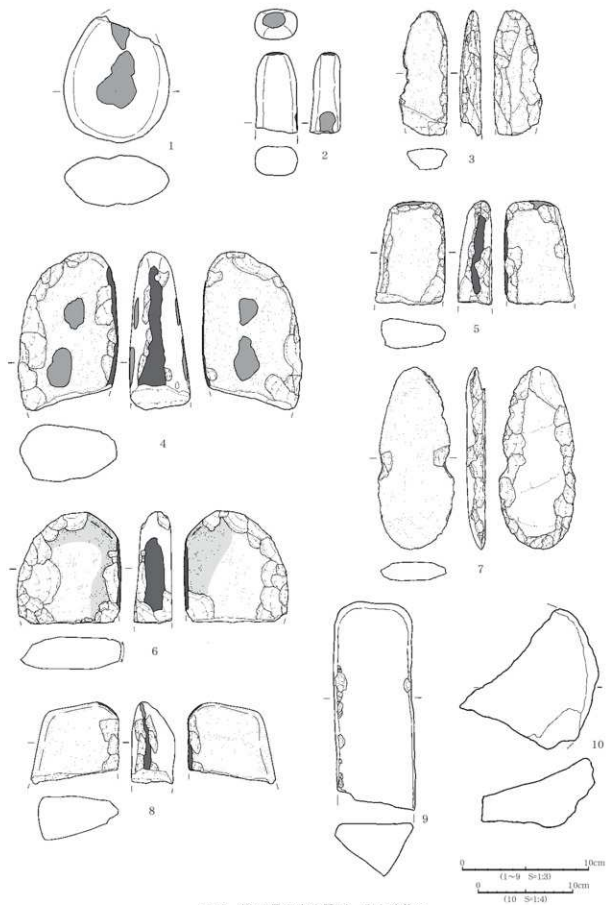
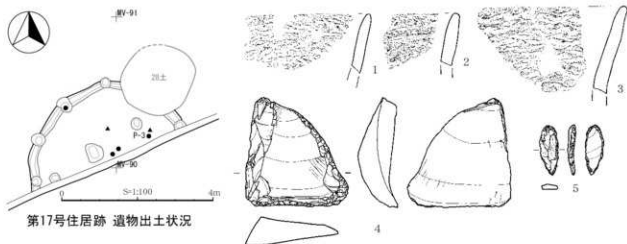
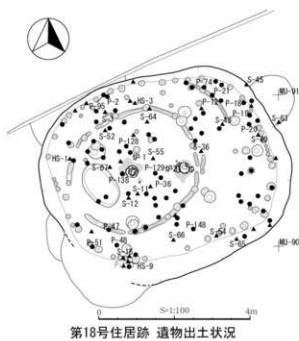


图45 第16号竖穴住居跡 出土遺物6



第17号住居跡 遺物出土状況



第18号住居跡 遺物出土状況

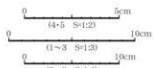
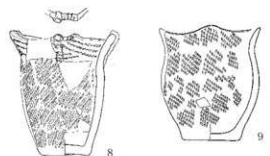
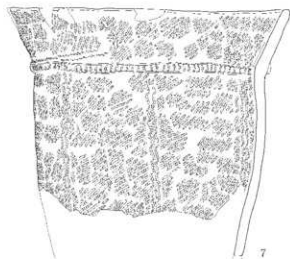
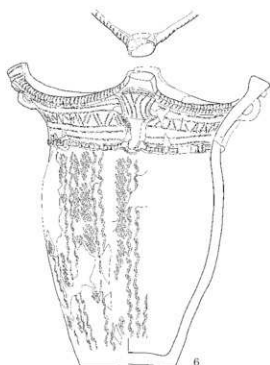


図46 第17号・第18号竪穴住居跡 出土遺物

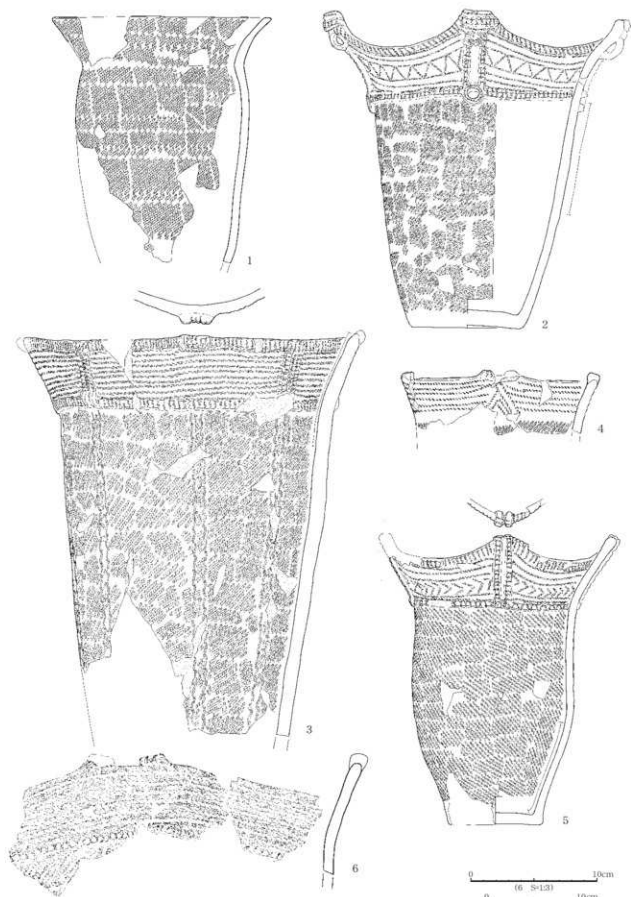


图47 第18号竖穴住居跡 出土遺物2

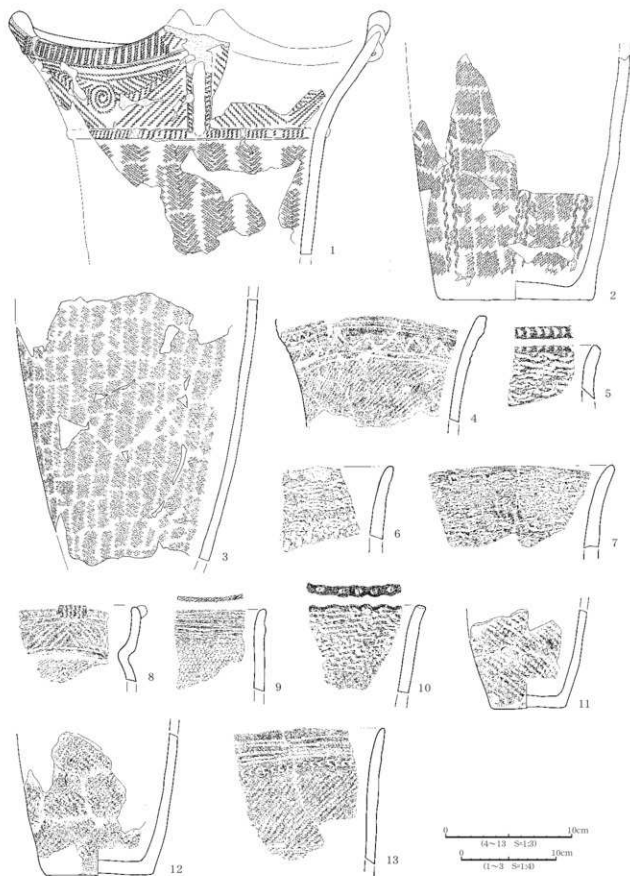


图48 第18号竖穴住居跡 出土遺物3

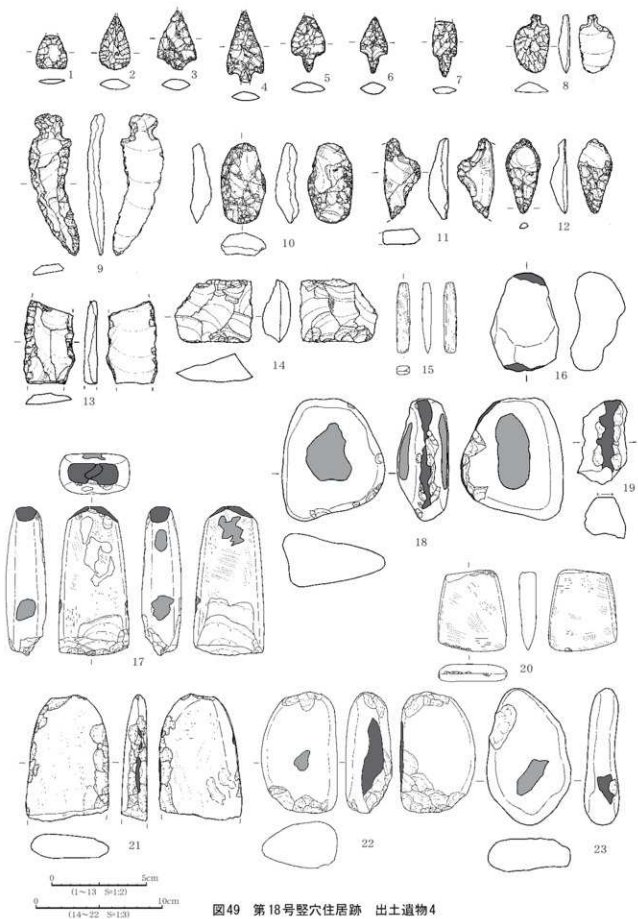
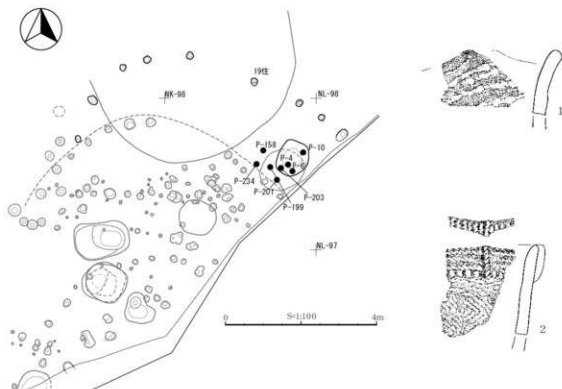


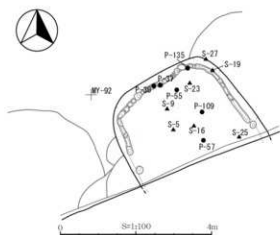
图49 第18号竖穴住居跡 出土遺物4



第19号住居跡 遺物出土状況



図50 第19号竪穴住居跡 出土遺物



第21号住居跡 遺物出土状況

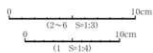
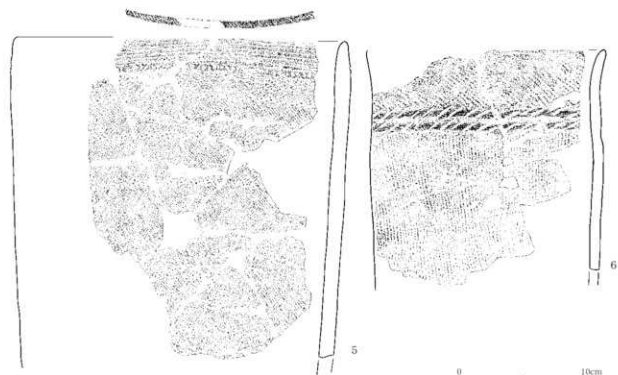
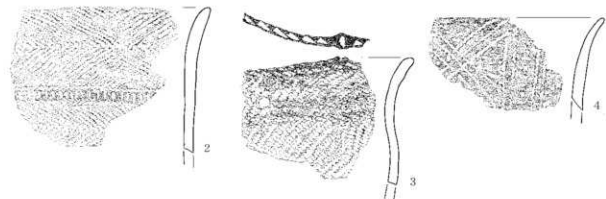
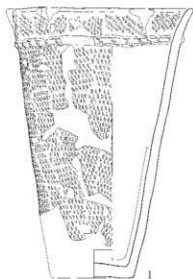


図51 第21号竪穴住居跡 出土遺物1

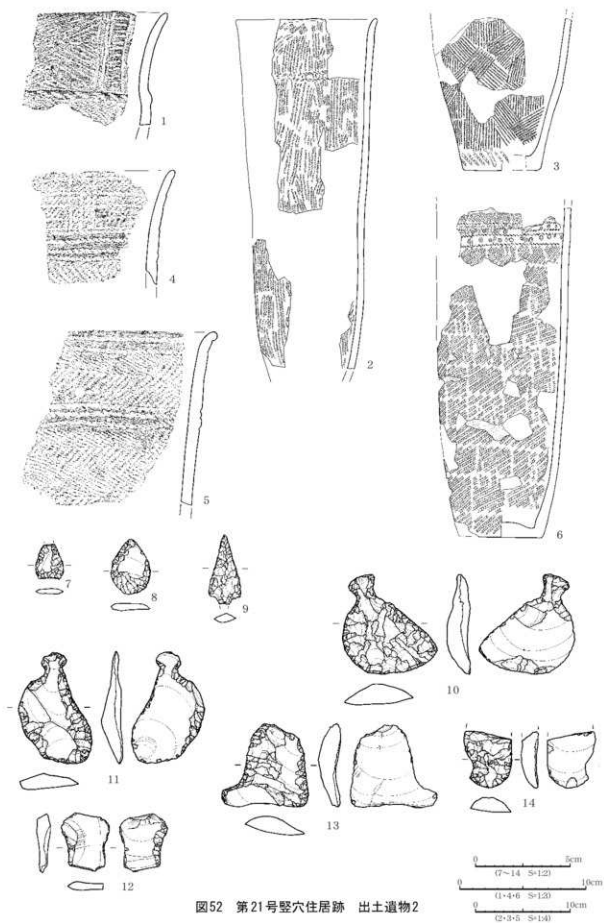


图52 第21号竖穴住居跡 出土遺物2

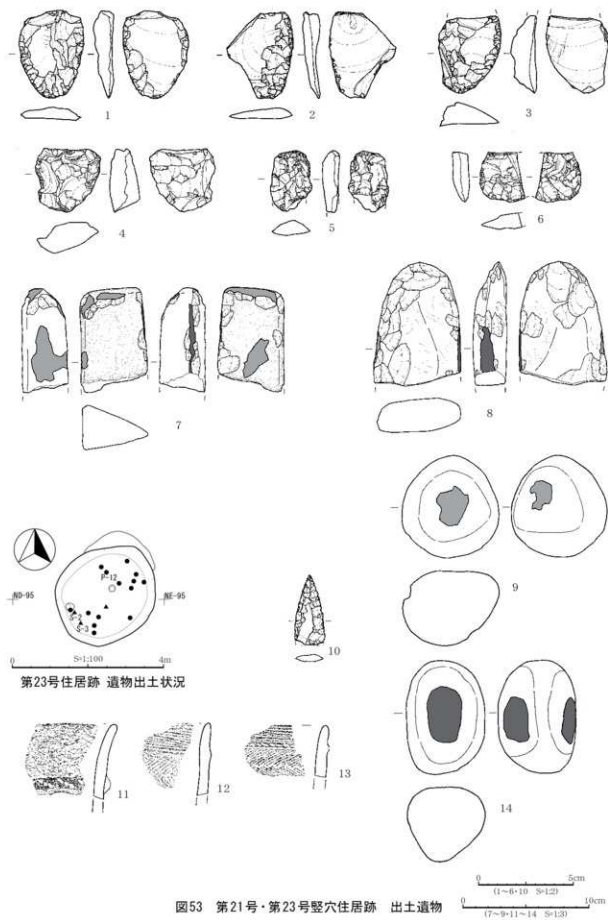


图53 第21号·第23号竖穴住居跡 出土遺物

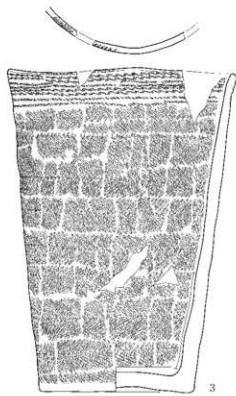
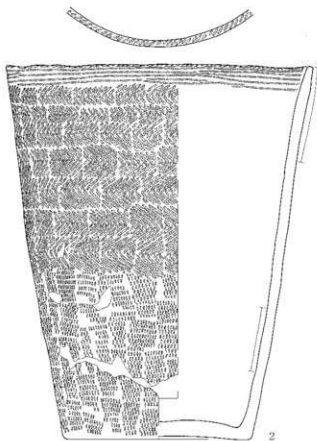
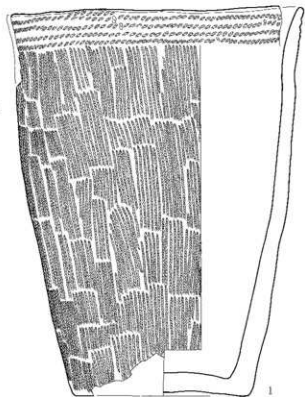
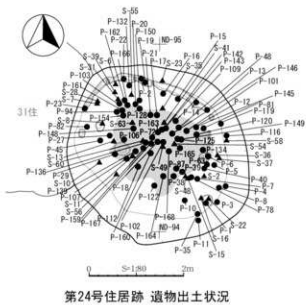


図54 第24号竪穴住居跡 出土遺物1

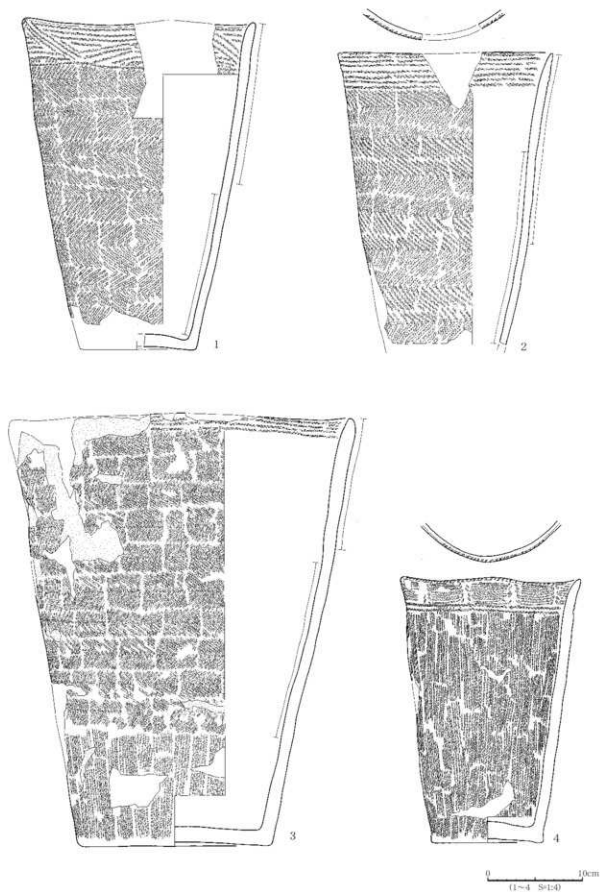


图55 第24号竖穴住居跡 出土遺物2



図56 第24号竪穴住居跡 出土遺物3

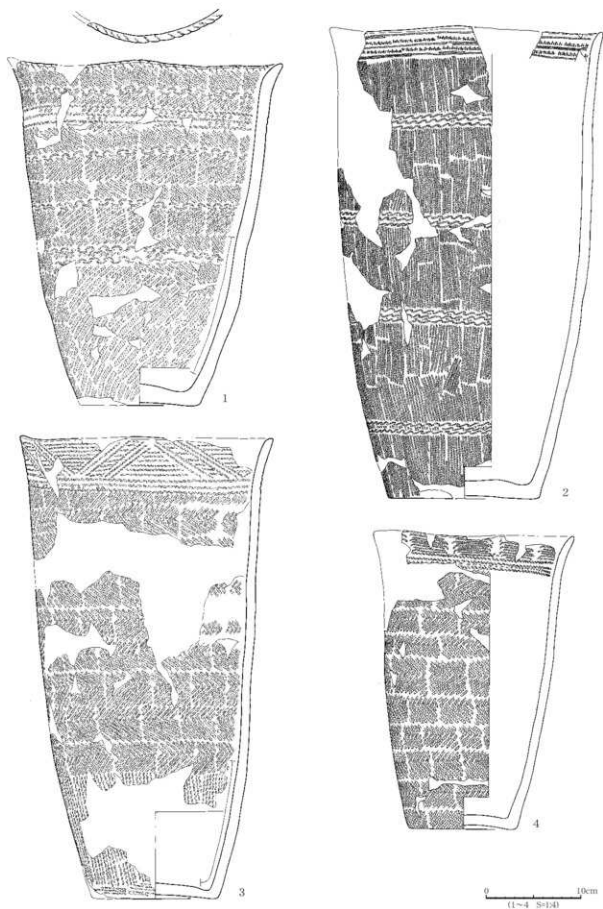


图57 第24号竖穴住居跡 出土遺物4



図58 第24号竪穴住居跡 出土遺物5

0 10cm
(1~4 S=14)

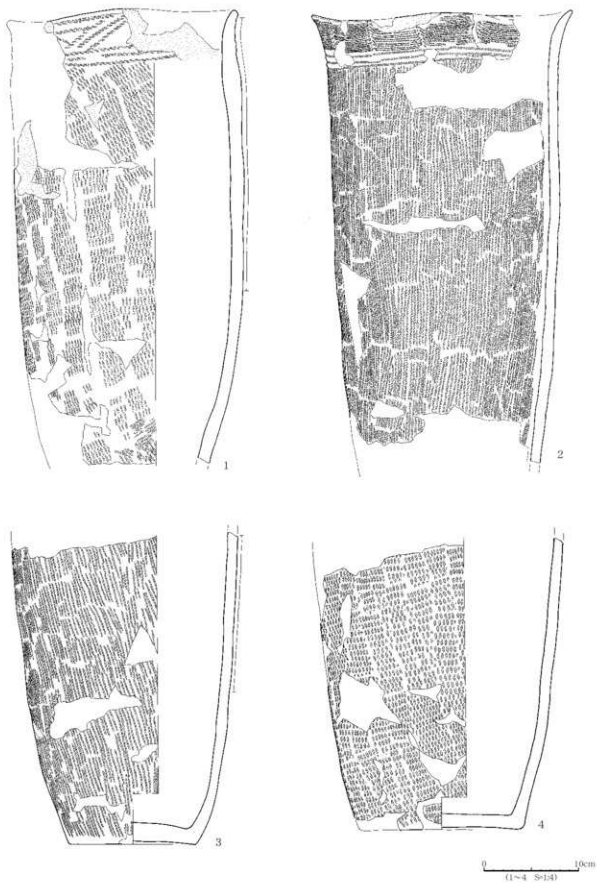


图59 第24号竖穴住居跡 出土遺物6

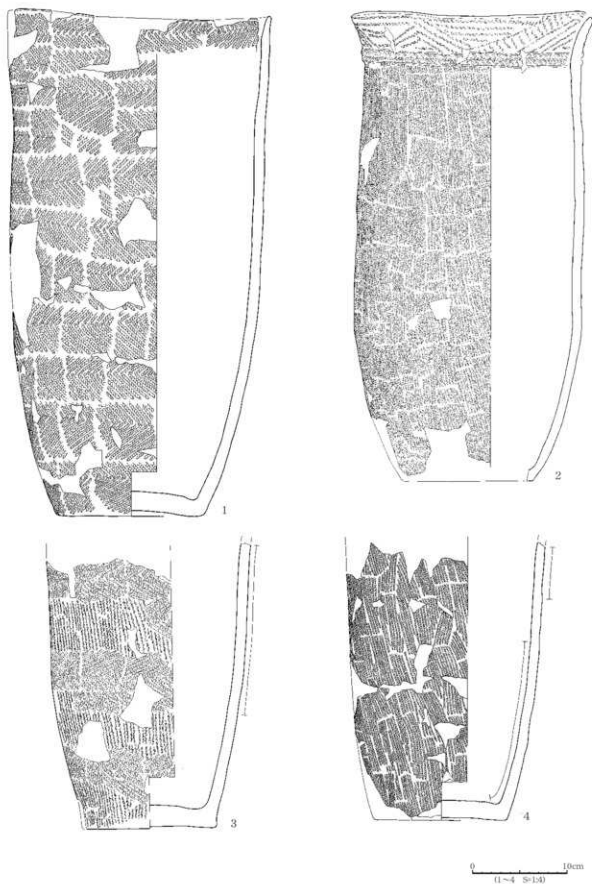


図60 第24号竪穴住居跡 出土遺物7

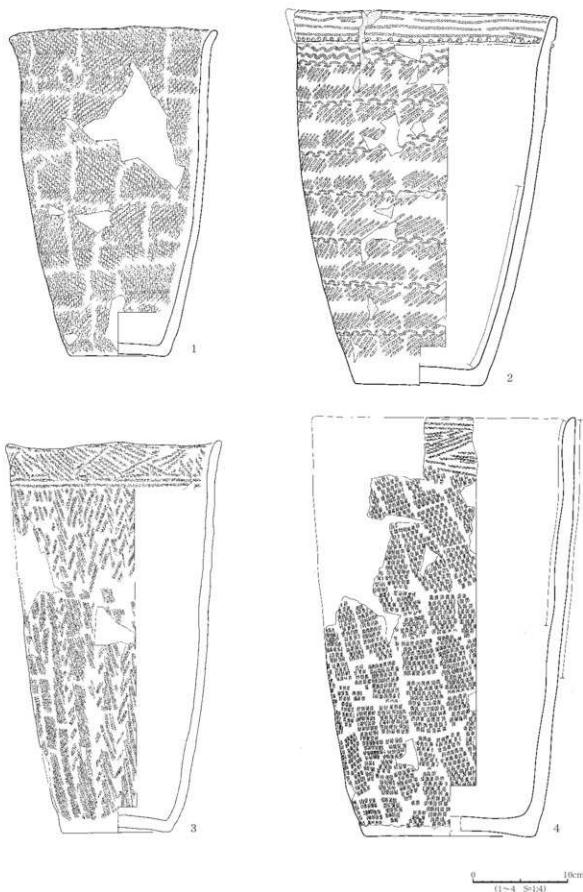


图61 第24号竖穴住居跡 出土遺物8

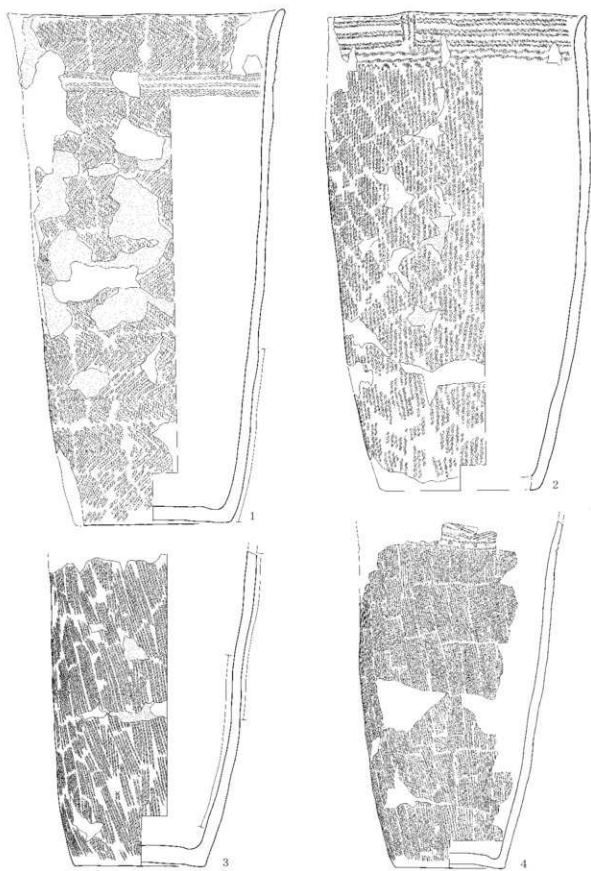


図62 第24号竪穴住居跡 出土遺物9

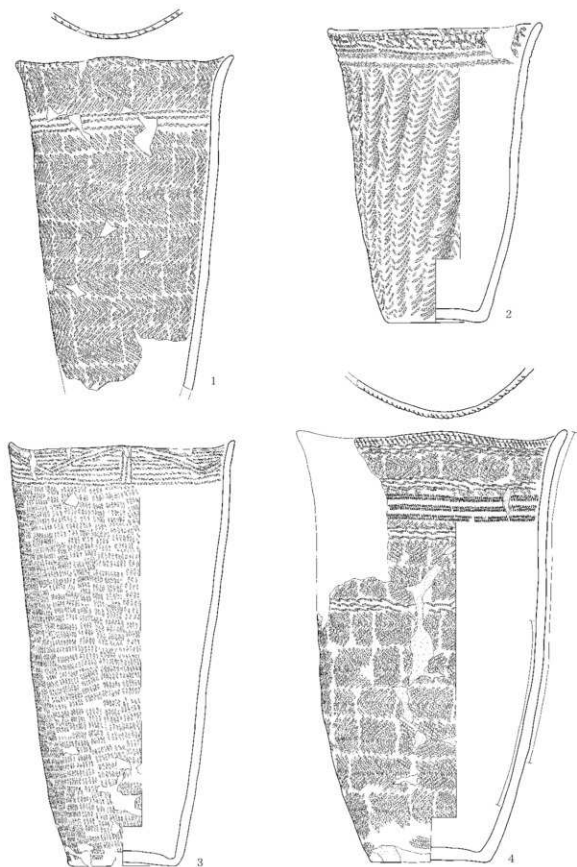


图63 第24号竖穴住居跡 出土遺物10

0 10cm
(1~4 S=14)

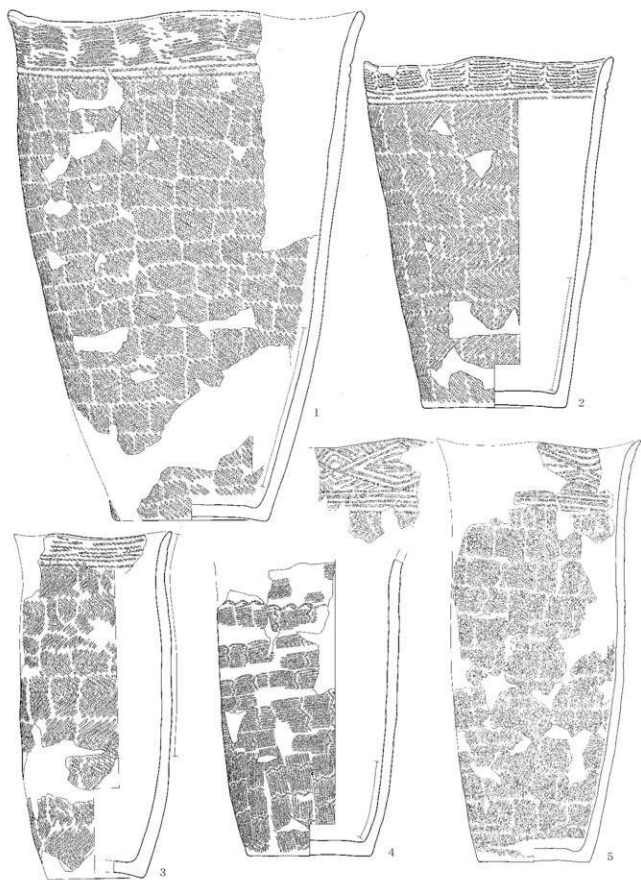


図64 第24号竪穴住居跡 出土遺物11

0 10cm
(1~5 3~1.30)

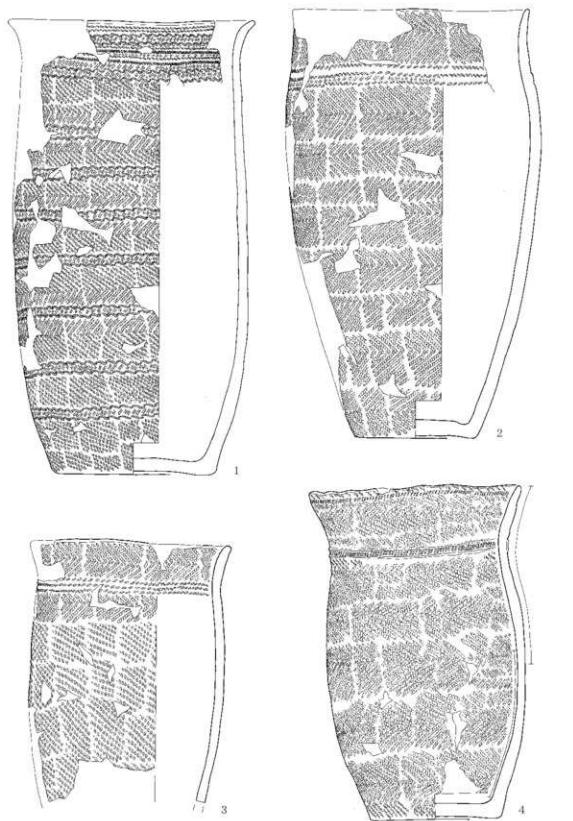


图65 第24号竖穴住居跡 出土遺物12

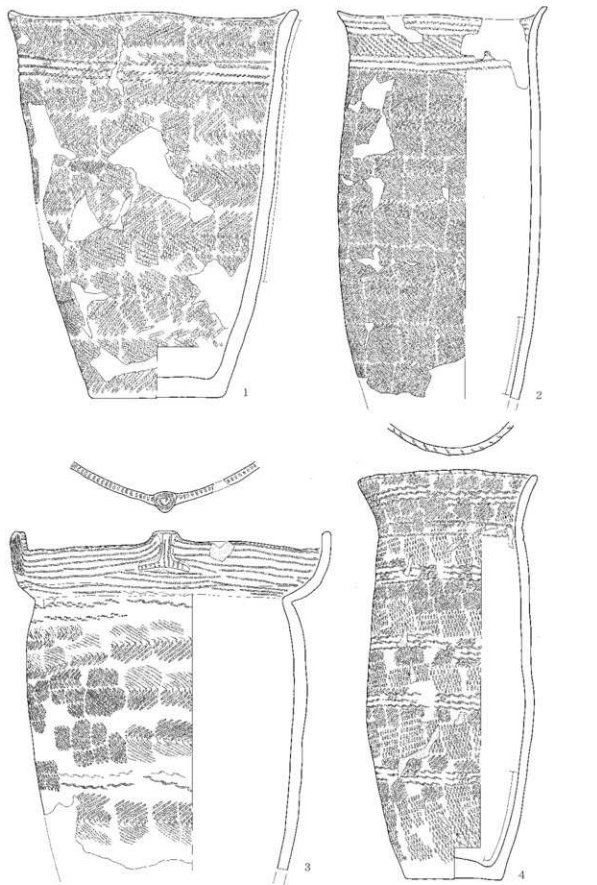


図66 第24号竪穴住居跡 出土遺物13

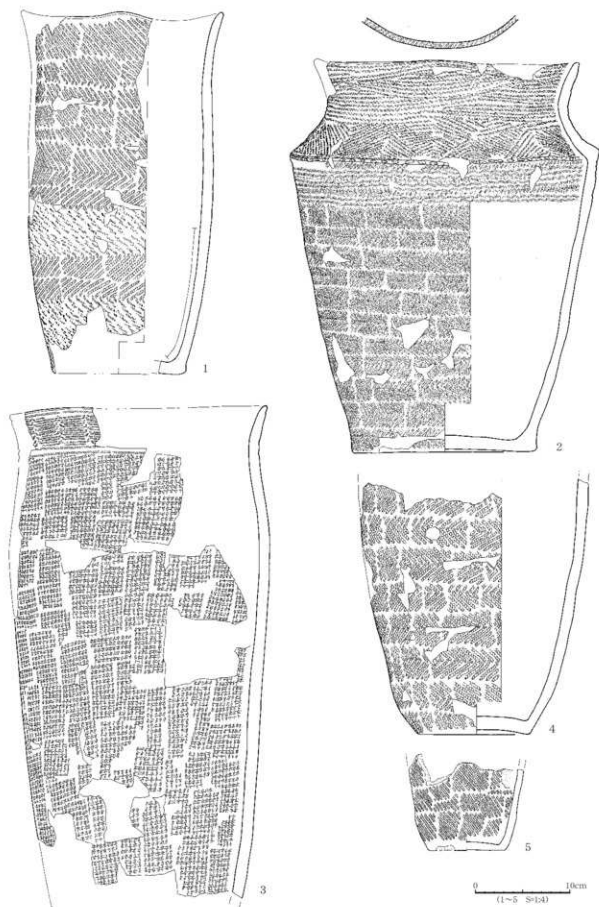


图67 第24号竖穴住居跡 出土遺物14

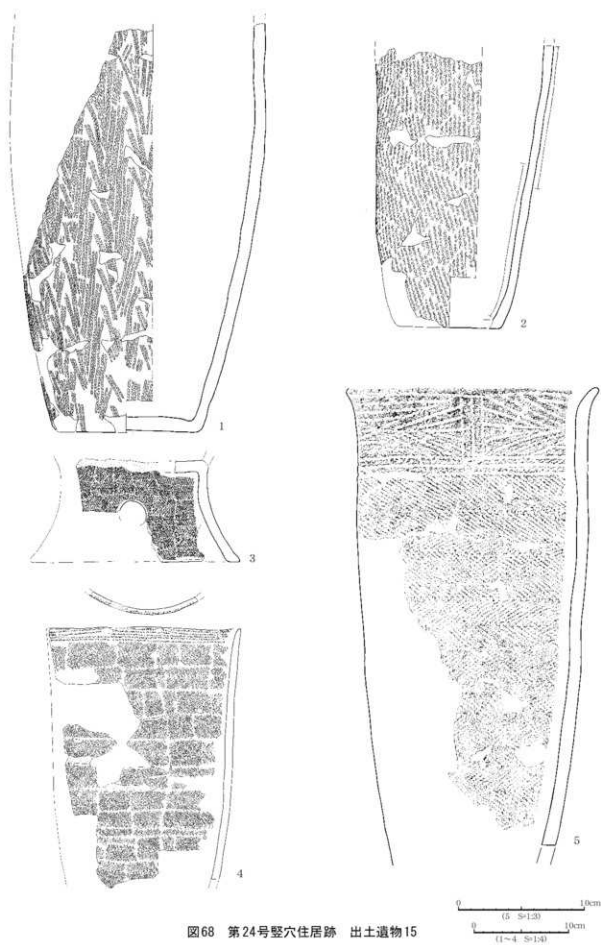


図68 第24号竪穴住居跡 出土遺物15

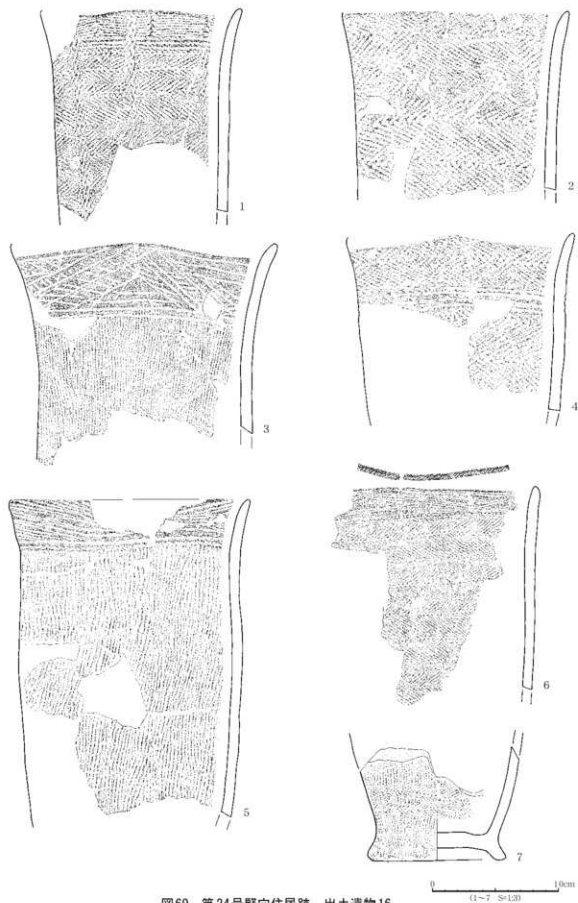


图69 第24号竖穴住居跡 出土遺物16

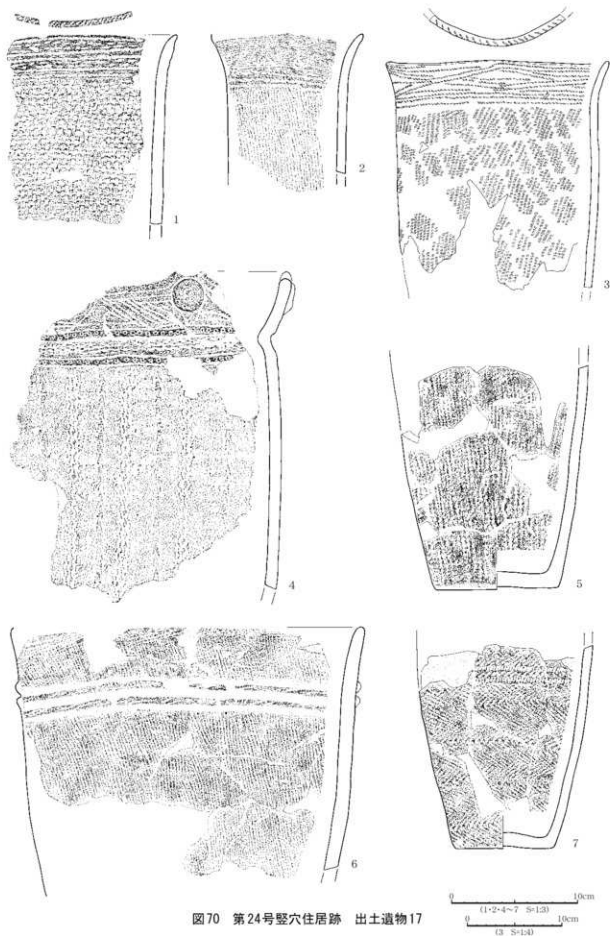


図70 第24号竪穴住居跡 出土遺物17

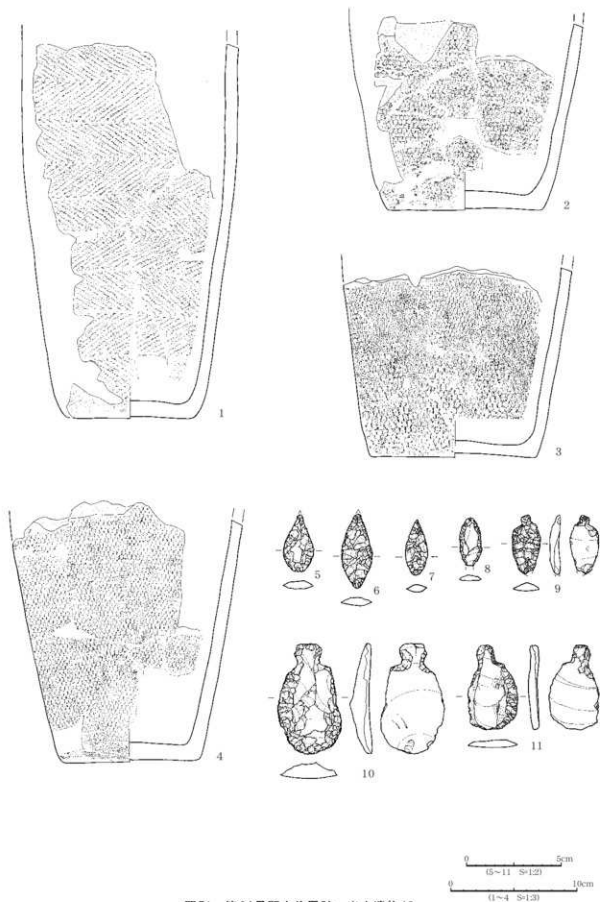


图71 第24号竖穴住居跡 出土遺物18

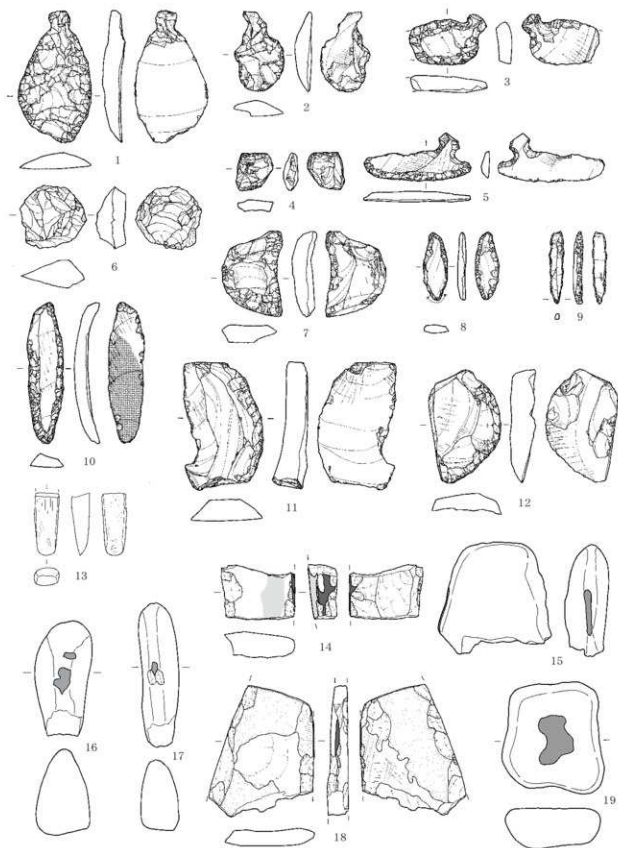


図72 第24号竪穴住居跡 出土遺物19

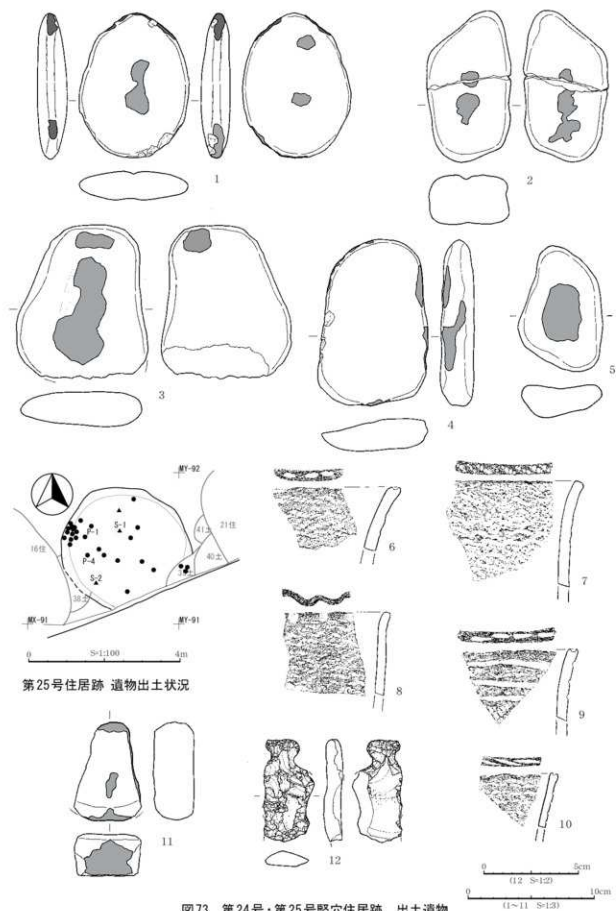
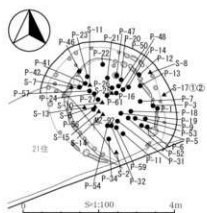
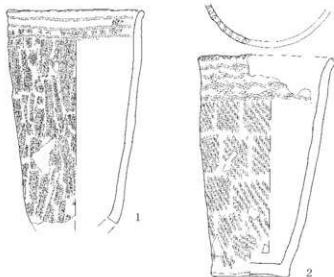


图73 第24号·第25号竖穴住居跡 出土遺物



第26号住居跡 遺物出土状況



0 10cm
1~5 S:1/4

图74 第26号竖穴住居跡 出土遺物1

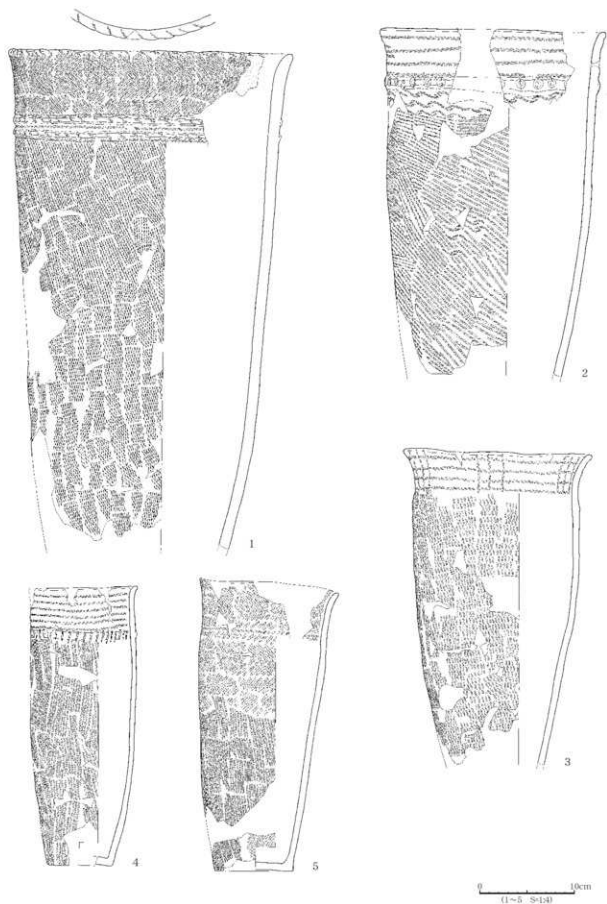


图75 第26号竖穴住居跡 出土遺物2

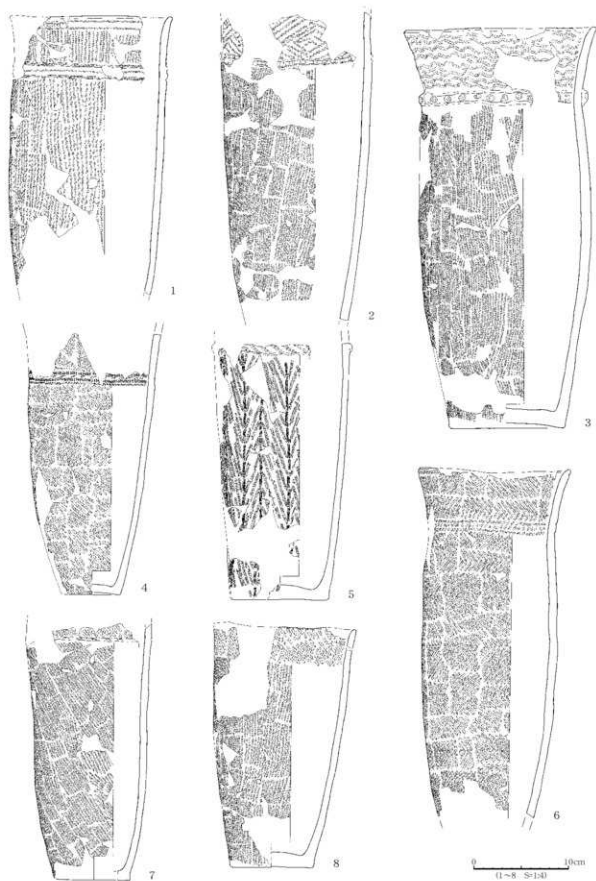


图76 第26号竖穴住居跡 出土遺物3

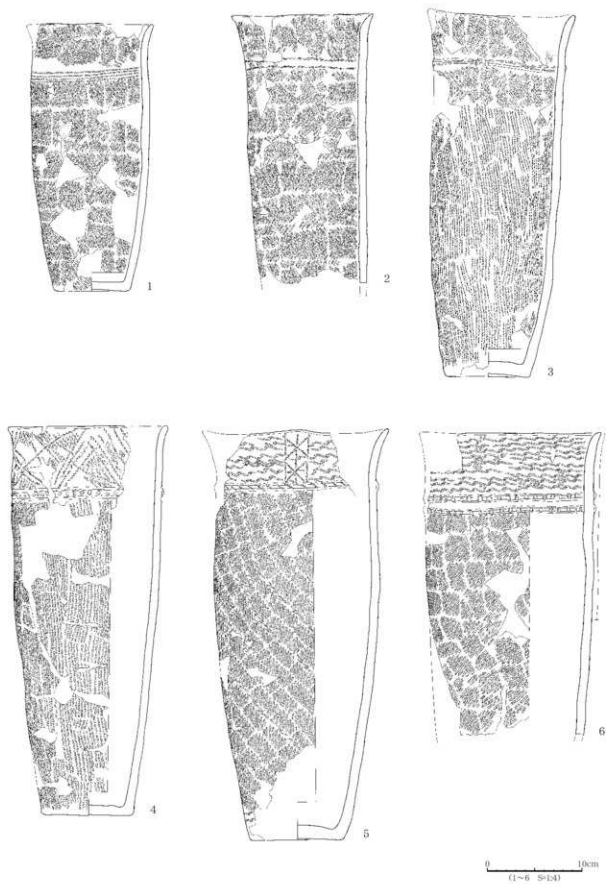


图77 第26号竖穴住居跡 出土遺物4



図78 第26号竪穴住居跡 出土遺物5

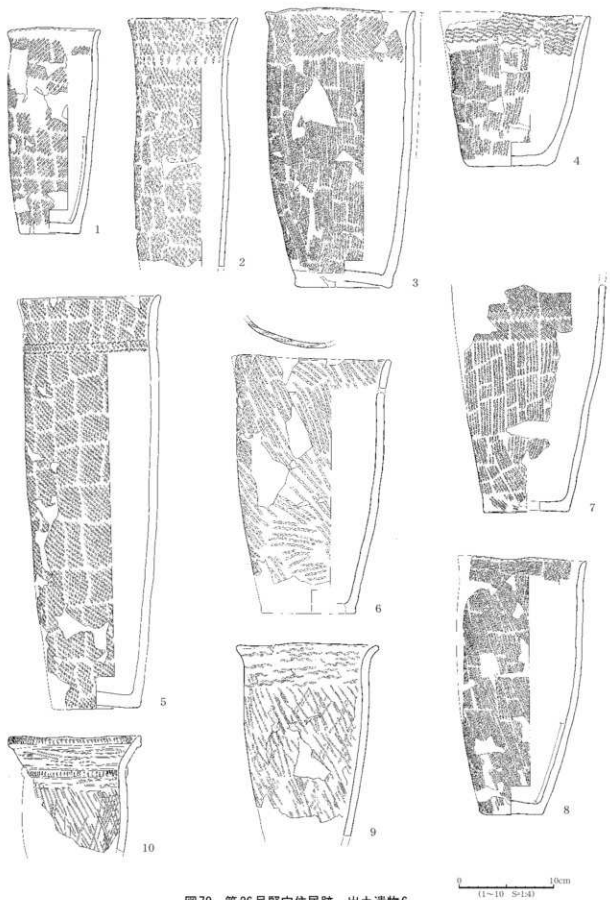


图79 第26号竖穴住居跡 出土遺物6